



三愛病院 / 老人保健施設 あうん高知

三愛病院

院長挨拶	127
概 要	128
部署責任者一覧	129
医師一覧	129
職員数一覧	130
年次報告	131
診療部	131
看護部	136
医療技術部門	141
事務部	148
在宅部門	153

老人保健施設 あうん高知

概 要	156
年次報告	156
入所	156
通所リハビリテーション デイケア・ファイト	157

三愛病院 / 老人保健施設 あうん高知

委員会	159
院内発表会	165
診療実績・業務実績統計	166
業績一覧	175
実習・研修生	176

中村 寿宏



三愛病院の令和2年度を振り返ってみます。

病床改編として、介護医療院、地域包括病床の開設を進めてきました。

まず、愛3病棟（介護療養病床48床）から介護医療院に転換するべく準備を進めてきた介護医療院さんあいが令和2年4月1日に開設しました。ここでは要介護高齢者で、医療も必要な病状の方の受け入れを行います。

さらに愛1病棟に、地域包括病床を開設するべく準備を行いました。これは令和3年4月1日に開設することになりました。

医局人事では、令和2年4月1日付で岡山大学医学部附属病院より、森下美智子先生（内科、リウマチ、膠原病）を常勤医師として迎えることになりました。堅実でありながら柔軟な仕事ぶりで活躍いただいています。

さて、令和2年度は新型コロナウイルス感染症のため、三愛病院も多大な影響を受けました。病院として、新型コロナウイルス感染対策を検討し、感染対策マニュアルの作成、PPEの研修と徹底を図りました。感染ステージごとに職員の活動制限、入院患者さんの面会制限を余儀なくされました。当初は、マスク・手袋・アルコールなどの備品が入手困難となりました。

高知県において、令和2年3月から始まった第1波以降、さらには8月からの第2波以降も外来患者数は激減しました。12月からの第3波では高知県内の患者数が増加し、当院でも外来トリアージを開始、外来患者さんの動線を分け、有熱外来を設置しました。抗原検査および等温核酸増幅検査を導入し、新型コロナウイルス感染者を診断できるようにしました。

また、三愛病院およびあうん高知の入院患者さん、入所者さんを感染から守るため、新規の入院患者さん、入所者さんは全員核酸増幅検査を受けていただき、陰性を確認して入院・入所していただきました。

新型コロナウイルス感染症は、明らかに我々医療者の業務量・精神的負荷を増やしました。その中で日々頑張ってくれている職員の皆さんには感謝しております。また変わらずにご支援・ご協力いただいている非常勤の先生方、協力病院・関係者の方々にお礼を申し上げます。

最後に、この大規模な感染症ができるだけ早期に克服されることを願ってやみません。それまで病院として頑張らせて対応してまいります。



三愛病院



老人保健施設 あうん高知



グループホームいろは丸と
デイサービスいろは



中庭のシンボル時計塔



春はお花見スポット・中庭

細木病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

概要

1. 理念・基本方針

仁生会憲章（三愛病院理念）

- 1) 私達は 限りない愛情と責任をもって 常に最善をつくします
- 2) 私達は 自己研鑽にはげみ 人々から愛される病院づくりを目指します
- 3) 私達は 常に和を大切に職場の規律を守り 病院の健全な発展に努めます

三愛病院の基本方針

私たちは、仁生会憲章に基づき、安全で適正な質の高い医療および療養環境を提供します。
また、最新の保健医療動向に取り組み、健康増進・予防対策の観点から、地域ニーズに適切適時対応します。
さらに、地域の声を医療活動に反映させていきます。

患者さまの権利5カ条

三愛病院のすべての患者さまは、以下の5カ条の権利を有します。

- 1) 良質の医療を継続して受ける権利
- 2) 治療に関して、他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利
- 3) 十分な説明を受け、自らの治療を選ぶ権利
- 4) 意識のレベルに関わらず、尊厳を守られる権利
- 5) 個人情報保護される権利

2. 施設とその内容

①施設面積、建物面積

敷地面積：3,877.69㎡ 建物面積：1,559.73㎡

②施設の内容（各階の目的、機能別）

4 F	介護医療院さんあい
3 F	愛2病棟 障害者施設等入院基本料 10対1 特殊疾患入院施設管理加算
2 F	愛1病棟 障害者施設等入院基本料 10対1 特殊疾患入院施設管理加算
1 F	外来診療部門、医療技術部門、事務部門

3. 標榜科目

内科、小児科、耳鼻咽喉科、放射線科、形成外科、皮膚科、美容皮膚科、整形外科、精神科、泌尿器科、循環器内科、訪問診療科、リハビリテーション科

4. 許可病床数

98床

愛1病棟 53床

愛2病棟 45床

部署責任者一覧

令和3年3月31日現在

院長	中村 寿宏
副院長	坂本 賢司
診療部	
医局長	橋 詰 稔
内科科長	中 川 治
内科科長	小野寺 真智
内科科長	品 原 正 幸
耳鼻咽喉科科長	市 川 利 恵
放射線科科長	岩 井 智 郎
看護部	
看護部長	濱 名 郁 里
愛1病棟看護師長	細 川 亜里沙
愛2病棟看護師長	中 平 好 昭
介護医療院さんあい看護師長	大 石 陵 子
外来看護師長	片 岡 典 代
在宅部門	
居宅介護支援事業所「一宮」主任	和 田 真 樹
グループホームいろは丸主任	森 岡 明 美
デイサービスいろは主任	竹 口 伸 也
高知市布師田・一宮地域包括支援センター	小 松 めぐみ

介護老人保健施設あうん高知	
施設長	細 木 秀 美
副施設長	小 松 雅 理
入所介護主任	嶋 崎 由 季
入所介護主任	猪 崎 優 子
入所介護主任	野 町 喜 代
入所看護主任	森 中 美 緒
通所介護主任	三 浦 恵 子
医療技術部門	
薬剤室室長	小 野 正 英
放射線室主任	廣 田 任 成
臨床検査室室長	栄 田 美 智 子
リハビリテーション課課長	門 脇 貴 代
理学療法室主任	濱 田 くるみ
作業療法室主任	竹 倉 佐 和 子
言語聴覚室主任	谷 口 桃 子
栄養管理室主任	石 山 由 香
地域医療連携室看護師長	戸 田 里 子
事務部	
事務部長	植 田 宏 平
総務課主任	鳴 瀧 有 人
総務課主任	小 川 歩 美
医事課課長	山 本 淑 恵

医師一覧

令和3年3月31日現在

理事長（内科）	細 木 秀 美
内 科	
内 科	中 村 寿 宏
	坂 本 賢 司
	中 川 治
	小野寺 真智
	品 原 正 幸
	森 下 美 智 子
	深 田 順 一（非常勤）
	岩 崎 泰 正（非常勤）
	上 村 千 鶴 子（非常勤）
	水 田 順 也（非常勤）
	刑 部 有 紀（非常勤）
	小笠原 史 也（非常勤）
	古 味 駿（非常勤）
檀 尾 岳（非常勤）	
小児科	
小児科	橋 詰 稔
	森 下 祐 介（非常勤）
	浦 木 諒（非常勤）

耳鼻咽喉科	
耳鼻咽喉科	市 川 利 恵
	前 田 優（非常勤）
放射線科	
放射線科	岩 井 智 郎
形成外科	
形成外科	三 好 みちよ（非常勤）
皮膚科	
皮膚科	池 田 光 徳（非常勤）
整形外科	
整形外科	森 田 穰 二（非常勤）
	泉 仁（非常勤）
	南 場 寛 文（非常勤）
	和 田 紘 幸（非常勤）
精神科	
不眠外来	森 田 啓 史（非常勤）
泌尿器科	
泌尿器科	山 本 志 雄（非常勤）
循環器内科	
循環器内科	西 本 美 香（非常勤）
訪問診療科	
訪問診療科	大 河 原 知 治（非常勤）

細木病院

二愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

職員数一覧

令和3年3月31日現在

医師	14	臨床検査技師	3	管理栄養士	3
看護師	83	理学療法士	14	事務員	31
准看護師	18	作業療法士	6	技能員	5
介護福祉士	65	言語聴覚士	5	理学療法助手	1
看護助手	26	ソーシャルワーカー	6	保育士	1
薬剤師	4	社会福祉主事	2	計	290
診療放射線技師	2	支援相談員	1		

細木病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会



三愛病院 中庭の風景

診療部



内科



院長
中村 寿宏



副院長
坂本 賢司



内科長
中川 治



内科長
品原 正幸



内科長
小野寺 真智



内科医師
森下 美智子

①活動内容・目標に対する達成状況

1. 今年度の医師の人事においては、森下医師を令和2年4月1日に岡山大学病院から三愛病院に迎えることとなった。

外来診療に関しては、高知大学医学部の医局からのご支援をいただいております。常勤医師とともに一般内科、糖尿病・内分泌内科、呼吸器・感染症内科、消化器内科の診療体制が継続できている。また循環器外来については、渡橋先生が令和2年7月11日に退職されたが、7月3日より細木病院の西本先生に引き継がれ、それに伴い月1回から週1回へと診療日数を増やし、6月8日にオープンしたほそぎハートセンターとも連携しつつ外来にて心不全や不整脈などの診療を継続している。このほか肥満外来、漢方外来、内視鏡検査などを

行っている。

新型コロナウイルス感染症の流行によると思われる外来患者数の減少のため、今年度の内科系外来延べ患者数は、前年比85%で15,000人を割る結果であった。当院でも令和2年12月4日より有熱者外来を開始し、通常の医療と新型コロナウイルス感染症を念頭においた医療を両立して対応を行っている。また、大河原医師により週1回の訪問診療を行っているが、9月以降は利用患者数は約3倍と増加している。

2. 入院診療では、令和2年4月1日から介護医療院を開設した。病棟構成は、障害者施設等一般病床（愛1病棟53床、愛2病棟45床）、介護医療院病床（介護医療院さんあい48床）を運用した。

診療は6名の内科医師で担当した。褥瘡治療や認知症診療などが必要な場合は、形成外科、もの忘れ外来などに診療を依頼した。障害者施設等一般病床では病床稼働率は90.9%（前年88.0%）、一日当たり患者数89.1（前年86.3）と増加した。介護医療院病床では病床稼働率は89.1%（前年89.3%）、一日当たり患者数42.8（前年42.8）と同程度であった。

②今後の課題

1. 現在、仁生会の将来計画に沿って病院改革を進めている。令和2年4月より介護医療院さんあいを開設しているが、医療ニーズのある要介護の高齢者さまの生活を医療と介護の両面で支えるよう、より有用な運用が図れるよう努める。

2. 地域包括ケアを念頭に置き、在宅医療・介護との連携の強化、訪問診療の充実を引き続き図る。令和3年4月から地域包括ケア病床の開設を予定しており、その運用に関して学習・協議を行っている。とくに創傷処置の必要な患者さまへの対応を念頭において介護施設との連携を図る。

③常勤医師の氏名

中村 寿宏
坂本 賢司
中川 治
小野寺 真智
品原 正幸
森下 美智子（令和2年4月1日～）

④非常勤医師の氏名

【内科】

細木 秀美
深田 順一
上村 千鶴子
岩崎 泰正
小笠原 史也
刑部 有紀（令和2年4月1日～令和3年3月31日）
水田 順也
樫尾 岳
古味 駿（～令和3年3月31日）

【循環器科】

渡橋 和政（～令和2年7月11日）
西本 美香（令和2年7月3日～）

【訪問診療科】

大河原 知治（～令和3年3月31日）

（文責：内科長 品原 正幸）

小児科



医局長／小児科長
橋詰 稔

①活動内容・目標に対する達成状況

一次診療、地域診療を中心とした外来診療を継続している。

令和2年度の患者数は昨年度比36%減であった。新型コロナウイルスの流行による受診控えに加えて、全ての感染症が激減した。

小児発熱外来を開始した。

小児保健関連では、地域の保育園健診（一宮保育園、東山保育園、あゆみ保育園）、幼稚園健診（一宮幼稚園）小学校健診（一宮小学校）に出向いた。病後児保育も新型コロナウイルスの流行のため、一時受け入れを制

限したため激減した。高知市医師会の夜間休日時間外診療にも参加している。

②今後の課題

新型コロナウイルスの流行による患者減は、しばらくの間続くと考えられる。感染症対策を続けながら新型コロナウイルスの収束を待つ。今後、小児に対する新型コロナウイルス予防接種も検討課題である。

③常勤医師の氏名

橋詰 稔

④非常勤医師の氏名

高知大学医学部 派遣医師

森下 祐介（平成31年4月1日～）
浦木 諒（平成31年4月1日～令和3年3月31日）

（文責：医局長／小児科長 橋詰 稔）

耳鼻咽喉科



耳鼻咽喉科長
市川 利恵

①活動内容・目標に対する達成状況

耳鼻咽喉科一般外来を行っている。昨年から引き続

き新型コロナ感染症の収束がみられず、前年と比較して、延べ患者数は61%と落ち込んでいる。

②今後の課題

1. 小児患者は、中耳炎・鼻炎・副鼻腔炎などの感染症がほとんどを占めるため、新型コロナ感染症蔓延の影響で激減している。成人患者は、難聴・めまい・鼻出血・副鼻腔炎・アレルギー性鼻炎・咽喉頭異常感・睡眠時無呼吸など多彩な症状で受診

されるが、特別な処置が不要な場合は電話受診への切り替えや受診控えが目立つ。引き続き感染症のコントロールにも注意しつつ、多彩な疾患にも対応し、手術適応がある場合やリスクが高い場合には、迅速に他院への紹介を検討したい。

新型コロナ感染症蔓延に配慮し、ネブライザー治療を中止し、ファイバー検査前に抗原検査を受けていただいている。医療者側も、ゴーグル、フェイスガード、N95マスク、帽子、手袋、予防衣などの措置をとりつつ、適切な治療に努めたい。

2. 補聴器外来を含め、外来患者のニーズに応えられるように、今後も努めたい。

③常勤医師の氏名

市川 利恵

④非常勤医師の氏名

高知大学医学部 派遣医師

青井 二郎（～令和2年4月30日）

葛目 雅弓（～令和2年4月30日）

長尾 明日香（令和2年5月1日～10月31日）

伊藤 広明（～令和2年10月31日）

前田 優（令和2年11月1日～令和3年3月31日）

（文責：耳鼻咽喉科長 市川 利恵）

放射線科



放射線科長
岩井 智郎

①活動内容・目標に対する達成状況

当科では、これまで同様整形外科領域や耳鼻科領域を除く単純撮影画像の読影、CT画像の読影、腹部や頸部の超音波検査、上部消化管造影検査を行っている。本年度は、コロナウイルス感染症の影響で、一般外来からの依頼がやや少なくなったようである。健診部門からの依頼は、職域健診が多いためか、目立った減少は認められなかった。

健診室の診察業務を兼務していることもあり、読影

レポートの完成に時間を要することがしばしばあった。

②今後の課題

現在も、高知県はコロナ禍にあり、安全の維持に努める所存である。読影レポートがほぼ電子化され業務上のストレスが軽減されているので、より迅速で正確な業務の実現に努めたい。将来的には、放射線室との連携のもと、設備の更新や透視画像を含めたオンライン化を実現したい。

③常勤医師の氏名

岩井 智郎

（文責：放射線科長 岩井 智郎）

形成外科



形成外科医師
三好 みちよ

①活動内容・目標に対する達成状況

外来では美容を主に小手術や外傷、褥瘡診察を、病棟では褥瘡、外傷処置を行っている。院内褥瘡に関して、今年度も目標を達成した。病棟処置件数は713件で前年より増加した。外来患者数は前年比105%であった。

②今後の課題

褥瘡の持ち込み入院が増えつつあり、早期治療を目指し各部署と連携して取り組んでいる。また、退院先に再発予防策を提案しており、今後も再入院とならないような取り組みを行っていききたい。

③非常勤医師の氏名

三好 みちよ

（文責：非常勤医師 三好 みちよ）

皮膚科

①活動内容・目標に対する達成状況

土曜日の午前中に、外来診療を行っている。月当たりの開設回数は2～4回程度である。予約枠を36設定して、患者さんの便宜を図っている。病棟往診は4～5名実施している。

皮膚外科治療も実施している。

②今後の課題

一宮皮フ科との住み分け。

③非常勤医師の氏名

高知県立大学 派遣医師

池田 光徳

(文責：非常勤医師 池田 光徳)

整形外科



整形外科医師
森田 稷二

①活動内容・目標に対する達成状況

外来診療は、毎日午前中で月、火、土は高知大学医学部整形外科教室よりの派遣医師が交代で、水、木、金は森田稷二が担当している。地域医療に十分貢献できているか心配な点もある。

②今後の課題

入院を要する高齢者が来院された際の対応に苦心する際は、いつも「本店」のお世話になっている。

③非常勤医師の氏名

森田 稷二

高知大学医学部 派遣医師

泉 仁

南場 寛文

和田 紘幸

(文責：非常勤医師 森田 稷二)

泌尿器科



泌尿器科医師
山本 志雄

①活動内容・目標に対する達成状況

細木病院グループでは、三愛病院で火曜日午後、金曜日午前、細木病院で木曜日の午前、午後を担当しています。

専門は一般泌尿器科を中心に、腫瘍、感染、小児、結石、神経因性膀胱を外来診察しています。

患者数は特に変動もなく、経過しています。

②今後の課題

近年は近森病院や高知大学と連携に努めています。

③非常勤医師の氏名

山本 志雄

(文責：非常勤医師 山本 志雄)

精神科

①活動内容・目標に対する達成状況

高知大学精神科医局より、森田啓史が精神科外来を毎週木曜日午前に行っている。外来診療と同時に、入院患者および介護老人保健施設あうん高知入所中の精神症状を認める患者さんの診察を担当している。加え

て、内科入院中に突然発症した精神症状への対応も行っている。精神症状は心理的な要因のみではなく、身体的な異常で生じることがあるため、心理検査、血液検査や頭部画像検査などを組み合わせた診察を行いながら、患者さんが地域で安心して生活できるよう

に、ケアマネージャーや保健師、その他の医療従事者との連携を行っている。

②今後の課題

令和元年度までは当科の医師は2名であったが、令和2年度からは1名となっている。よって、マンパワーの不足が課題である。加えて、当院には精神科の病床がないため、入院を要する精神症状を有した患者さんが外来を受診した際の、迅速な対応も課題と考える。

③非常勤医師の氏名

高知大学医学部附属病院

精神科 病院助教

森田 啓史（令和2年4月1日～）

（文責：非常勤医師 森田 啓史）



健診室

①活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容

①健康診断

生活習慣病予防健診（協会けんぽ）、特定健康診査（特定健診）、事業主健診（企業健診）、人間ドック、大腸がん検診、肝炎ウイルス検査、一般健診など。

②職員健診

職員の定期健康診断、新採用者・中途採用者の健診

2. 目標達成状況

今年度の上期は、新型コロナウイルス感染症の影響から、受診控えがあり受診者数が減少していた。また、エアロゾル暴露の防止から胃内視鏡検査を休止していたこともあり、1年を通して受診者が少なく、前

年度の比較で70%程度であった。

令和元年度 健診件数：1,689件（16,916,474円）

令和2年度 健診件数：1,189件（11,829,717円）

②今後の課題

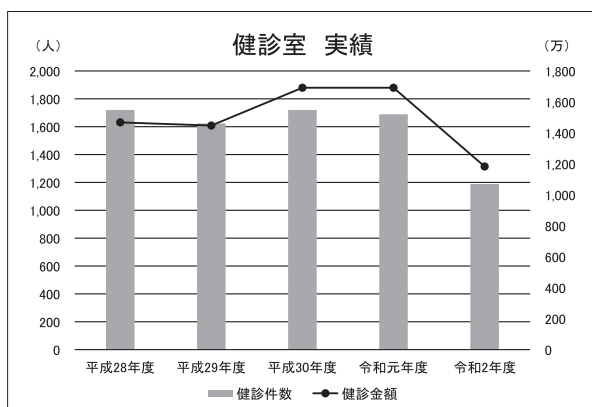
今後も新型コロナウイルス感染症による影響（胃内視鏡の休止）や、設備や人員の問題から今以上に受け入れをすることが難しい現状ではあるが、長期的な対応を考えた取り組みを行っていききたい。できる限り受診者のニーズに応え、地域の病院として生活習慣病予防、疾病の早期発見に貢献していききたい。

③常勤医師の氏名

岩井 智郎

■ 健診室 業務実績

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
健診件数	1,720	1,623	1,720	1,689	1,189
健診金額	14,677,701	14,474,314	16,916,803	16,916,474	11,829,717



（文責：健診室 医師 岩井 智郎）

看護部

1 概要

構成部署：
看護部長室・医局秘書・
医師事務作業補助
所属長名：濱名 郁里
構成職員：看護師 1名
事務員 4名
合計人数 5名



看護部長
濱名 郁里



便性が図られ好評を得ている。

昨年に引き続き、新型コロナウイルスの対策で1年間を通して面会制限を行っている。全国の病院や施設でクラスターが起き、面会制限をすることに理解は得られているものの、リモート面会などの対策はできておらず課題である。

今年度は、特に看護部職員のワークライフバランスの取り組みに力を入れた。残業時間の削減のために、業務の見直しや助勤の体制を整え、看護補助者の増員やCSセットの導入などでタスクシフトを行った。さまざまな取り組みを行った結果、看護師の離職率は昨年の15%から4%へと激減し、効果があったと考える。低い離職率を維持できるように今後も取り組みを継続していく。

2 2020(令和2)年度 目的・目標

1. 組織の変革に柔軟に対応し、発展に貢献する
2. 地域住民の『健康増進』のため、社会支援活動を積極的に行う
3. 当院を訪れるすべての患者に寄り添い、看護の力を最大に発揮する
4. 患者の人権と権利を尊重し、安全で最適な療養環境と質の高いケアを提供する
5. 専門職としての責任を果たすため、研鑽を重ね常に最新の知識と技術を習得する
6. チーム医療での治療効果を最大に発揮できるようにチームの調整役となる

3 目標に対する取り組み

昨年度末に開院した介護医療院は、開院直後より安定した運営が行われており、その機能を発揮できている。今年度は、愛1病棟の一部病床を地域包括ケアに転換するためのさまざまな取り組みを行った。改修工事のため、騒音や入浴が一時期できないなどのご迷惑をおかけしたが、その中でも、在宅訪問診療を充実させたことは、自立度の低い患者さんや家族にとって利

4 次年度の課題

1. 経営基盤の安定化
2. 看護部における働き方改革
3. 質の高い看護・介護職員の育成

(文責：看護部長 濱名 郁里)



愛1病棟

1 概要

病棟形態：障害者施設等一般病棟
(10：1入院基本料)
病床数：53床
所属長名：細川 亜里沙
構成職員：看護師 23名
准看護師 3名
介護福祉士 1名
看護助手 4名
クラーク 1名
合計人数 32名



2. 看護実践能力を高め、安全・安楽な個別性のあるケアが提供できる

2 2020(令和2)年度 目的・目標

1. 関係部署との連携を密にし、障害病棟の役割を果たす

3 目標に対する取り組み

1. 障害率については平均81.23%であり目標の80%

をクリアすることができた。病棟稼働率については障害率を考慮しながら入院の受け入れを行うことで昨年の85.53%を上回り87.75%と、目標の85%以上を達成することができた。今後は、稼働率・障害率ともに下げないために、入院相談会での検討時に対象患者・非対象患者をセットで受け入れることや対象患者を積極的に受け入れることで障害率80%以上キープし、稼働率85%以上となるようにしていく。

B棟の稼働率については、75.47%と目標の60%を達成することができた。令和2年9月からの地域包括病床実績取得に伴い、糖尿病の教育入院や褥瘡治療、レスパイト目的の患者の受け入れを積極的に行った。また、以前まではBランクで独力行動がみられる患者は転倒リスクの観点からB棟では対応をしていなかったが、B棟でもステーションに近い部屋でコールマットやセンサーマットでの対応をすることで、入院患者数を増やすことができた。

2. 他職種との連携については、入院時カンファレンスの開催を行うことで入院前の情報を共有するこ

とや中間・退院前カンファレンスではケアの評価・修正を行っていくことで統一したケアにつなげることができた。人材育成については、副院長・主任・プリセプターを中心に教育・指導を行い、リーダー会などで情報共有し、指導方法の検討や統一を図ることができた。中堅看護師については指導・教育の足並みを揃える目的のもと、リーダー会の回数を増やし個々の長所・短所などを共有することで、自己のフィードバックを行う機会となった。

自己研鑽は個々によって参加率に差があり、自己の目標時間をクリアできていないスタッフがいる。特に院外研修への参加率が低いため必要な研修については個別に参加促しを行っていく。

4. 次年度の課題

1. 関係部署との連携を密にし、障害病棟の役割を果たす（障害病棟・地域包括病床の基準維持）
2. 看護実践能力を高め、質の高い個別性のあるケアが提供できる

2020(令和2)年度【部署名：愛1病棟】勉強会

月	テーマ	担当者
4月	看護記録の位置づけと記載方法（フォーカス）	夕部・島倉
5月	身体拘束について（適応と記録・チェックリスト）	中西・山本
6月	重症度、医療・看護必要度の記録と評価	小原・金子・島本
7月	リーダー・受け持ち看護師の役割	菜名・岡崎
8月	大規模災害時の対応	松本・松岡
9月	医療機器の取り扱い（12誘導心電図・携帯用心電図）	藤本・山崎
10月	感染管理（インフルエンザ・感染性胃腸炎）	鎌倉・細川
11月	ブルーコールの対応・ハイリスク薬、救急搬送時の手順	田井・川崎
12月	褥瘡対策・MDRPU・創傷処置について	大原・三谷
1月	認知症高齢者の看護	島本・武田・筒井
2月	接遇（事例を踏まえて）、倫理について	近藤・大島
3月	事故対策とヒヤリハット報告（自部署の傾向と対策）	千光士・中城・岡本・高橋

（文責：看護師長 細川 亜里沙）



愛2病棟

1. 概要

病棟形態：障害者施設等一般病棟
(10対1入院基本料)

病床数：45床

所属長名：中平 好昭

構成職員：看護師 23名
准看護師 2名
介護福祉士 3名
看護助手 2名
クラーク 1名
合計人数 31名



2. 2020(令和2)年度 目的・目標

1. 関連部署との連携を密にし、稼働率88%（40人）以上をキープする

2. 看護の質を高め、患者満足の上昇に努める

③目標に対する取り組み

1. 平均障害率83.9%、平均稼働率93.1%で目標を達成することができた。
障害者病棟の施設基準を念頭に置き、入院相談会では他病棟の状況を情報共有し、患者の状態により受け入れを行った。入院後、患者の状態に応じて必要時は1週間以内に入退院支援カンファレンスを開催し、関連部署と退院調整に必要なケア検討を行うことができた。
病棟再編に向けての取り組みでは、令和2年10月から愛1病棟の地域包括病床実績期間が開始となり、開設準備の工事や地域包括の実績に応じたベッドコントロールに協力することができた。
2. 新型コロナウイルス感染防止対策で面会制限が長くなっており、患者・家族の不安、心配が増し、家族とのコミュニケーションも取りづらいため、洗濯物の受け渡しの際に患者の様子を一言添え、手紙のやり取りや携帯電話で対応するなど各職員が意識して、できる限り要望に応える取り組みができた。障害病棟は大半が長期療養患者であるが、在宅退院の可能性のある患者は多職種で情報共有を行い退院に向けたサービス調整をすることができた。退院前、退院後自宅訪問を行ったケースもあり、職員が介護保険制度の仕組みやサービス調整について経験できた。
今後も患者、家族の要望聞き取りやアセスメントを行い、積極的な方向性の検討をしていくように

職員が経験できる機会をつくっていく。
業務改善では、下半期に申し送り時間の短縮化に取り組んだ。必要な申し送り内容の決め事と電子カルテの患者メモの活用を行い、時間を意識することで上半期より申し送り時間の短縮につながった。これからも各職員が意識して申し送りをし、受ける側も自ら情報収集する習慣をつけていく必要がある。

人材育成については、定期的なプリセプター会を開催し、新入職者への教育、指導方法、進捗状況の情報共有に努め、予定を立てながら育成していくことができた。上半期中には4月入職の看護師2名とも夜勤業務に入ることができた。
専門職としての自己研鑽については、新型コロナウイルス流行の影響で中止となった研修や会場の人数制限があり、研修に参加しづらい状況ではあったが、オンライン研修の活用や病棟内で必要な内容は教育委員が中心となり、2年目看護師が課題に取り組み勉強会を開催した。病棟全職員が手順を振り返る良い機会となった。次年度もコロナ禍で研修の参加人数制限やオンライン研修が中心となることが想定される。できる限り職員が希望の研修に参加できるように調整を図っていく。

④次年度の課題

1. 施設基準の維持と病床稼働率の安定化
2. 働きやすい職場風土の構築
3. 看護・介護の力を発揮し、サービスの質を高める

2020(令和2)年度【部署名：愛2病棟】勉強会

月	テーマ	担当者
4月	フォーカス記録の書き方、SBARでの報告の仕方	中澤・岡林
5月	褥瘡対策(MDRPU予防、スキンケア処置)	諏訪・岩崎
6月	医療安全(R元年度病棟事例のまとめ、ヒヤリハット報告書の記入方法)	山本・南
7月	エンゼルケア(マニュアルの周知・ターミナル期の患者家族への関わり)	北村・吉川
8月	接遇と倫理(患者家族への言葉遣い、電話対応の仕方)	澤村・三宮
9月	医療機器の点検と取り扱い(モニター、輸液ポンプ、AED、12誘導心電図など)	川崎・尾崎
10月	感染管理(ノロウイルス、インフルエンザについて)	嵐・岡林
11月	認知症高齢者の看護	廣田・西内
12月	ブルーコールの対応(急変時看護、介護の役割、救急カートとハイリスク薬)	松山・河野
1月	災害対策(院内・病棟内物品について)	濱田・多田
2月	排泄ケア(スキントラブル予防・症例に合わせた具体的なオムツ交換)	三宮・松本
3月	身体拘束について(センサー選定と使用方法)	宗石・楠永

(文責：看護師長 中平 好昭)

 介護医療院さんあい

①概要

病棟形態：I型介護医療院
病床数：48床
所属長名：大石 陵子

構成職員：看護師 11名
准看護師 4名
介護福祉士 13名
看護助手 1名

介護支援専門員 1名
 クラーク 1名
 合計人数 31名



2) 2020(令和2)年度 目的・目標

1. 介護医療院施設基準の維持
 - 1) 地域施設や他部署と連携し、入所者45名以上をキープする
 - 2) I型介護医療院の要件を念頭におきベットコントロールする
2. 各職種が力を発揮しサービスの質を高める
3. 専門職としての能力が発揮できるように知識・技術を習得する

3) 目標に対する取り組み

1. 入院稼働率は上半期90.3%で平均入所者数は43.21名。下半期稼働率は88.1%で平均入所者数は42.3名。昨年4月から介護医療院の運用を開始。運用を滞りなく行うことに注力はしていたものの、年度途中での管理者の変更や、看護・介護職員の離職に伴う人員基準の面でも、入所者数を増やすことが難しい状況の時期もあった。そのため、年間平均入所者数は42.75人、平均稼働率は89.2%となり、年間目標値をクリアすることができなかった。
 昨年に比べると他院からの入所数が減少しているが、令和2年7月以降は、I型介護医療院であるため、地域包括ケア病床の在宅復帰率につながる施設であることも意識し、地域連携室・他病棟と相談しながらベットコントロールを行った。
2. 今年度の介護事故報告は、与薬に関する事案2件、骨折事案1件であった。骨折事案については、全介助入所者の移乗介助後の骨折。2名介助で抱きかかえての移乗実施していた。再度全介助

レベルの方の2人介助での対応徹底と抱えないケアも検討し、継続して評価している。薬剤に関する事故報告については、ヒューマンエラーによるもので、手順に沿った確認を実施していくことを再周知している。職員間連携では、各自がアサーティブな対応と互いに価値観を認め合うことを意識しており、多職種が連携して働きやすい環境づくりに取り組んではいるが、課題はまだ残っている。今年度は、新型コロナウイルス感染症に対して、病院方針の感染対策を実施。面会制限がかかっている期間が長かったことや、外出制限もあり地域との交流も持つことができなかった。家族の不安も大きかったと思われるが、ケアマネ中心に家族来院時には、入所者の情報提供をして不安の軽減に努めた。

3. 研修参加に対する意識には個人差があるものの、感染対策などで対面研修がほぼなくなり、その代替でオンライン研修の参加は呼び掛けた。

4) 次年度の課題

1. I型介護医療院施設基準の維持
2. 各職種が力を発揮しサービスの質を高める
3. WLBも考えた労働環境の改善

2020(令和2)年度【部署名：介護医療院さんあい】勉強会

月	テーマ	担当者
4月	受け持ち記録物について	関
5月	ブルーコール、急変時対応	田淵
6月	自立支援、レクリエーション	比良・藤田
7月	接遇、倫理、プライバシー保護	篠原・宮地
8月	褥瘡、MDRPU予防、創傷処置、ポジショニング、クッション管理	芝・井上
9月	記録(当院の記録に関するルール)、高齢者虐待防止・身体拘束適正化について	津野・浅野
10月	感染管理、食中毒(経路別予防策、標準予防策)	前田
11月	災害時対応(情報システム・トリアージ)	山岡
12月	排泄ケア(自部署での取り組みも含む)	森本
1月	認知症ケア	矢野
2月	看取りケア、エンゼルケア(ACPについて)	橋本
3月	医療事故防止、発生時の対応(自部署のヒヤリハット集計・分析)	伊豆丸

(文責：看護師長 大石 陵子)



外来・中央滅菌材料室・病児保育室「愛あいルーム」

①概要

所属長名：片岡 典代	
構成職員：看護師（1名健診兼務）	12名
准看護師	2名
看護助手	1名
保育士（病児保育担当）	1名
事務員（健診室担当）	1名
合計人数	17名



②2020(令和2)年度 目標

- ①組織の変革に伴い、乗り遅れない外来となることができる。
- ②地域包括システムを踏まえた外来看護サービスの提供を行う。
- ③患者満足度の向上を図る。
- ④他部署と共同しチーム医療を推進する。

③目標に対する取り組み

1. 新型コロナウイルス感染症対策として、発熱外来受診方法を関連部署と検討し診察を行っている。新型コロナウイルス感染症検査は、発熱外来で実施（283件）している（令和2年12月2日～令和3年3月31日）。
2. 朝の申し送りを中止し、報・連・相を強化し情報の共有に力を入れた、変更に伴いスタッフにアンケート実施した。中止に伴う困惑もなく業務に支障は全く見られていない。
3. 在宅で通院困難である患者に対し、訪問診療を実

施している。担当医師退職に伴い土曜日の訪問診療を平日の訪問診療に変更した。1カ月10件以上を目標とし139件／年となり達成できている。

4. 外来数減少、病児保育利用者減少により、他部署へリリーフ体制をつくり実施した。
5. 令和2年度病児保育室は、開設日数291日（うち実施日数97日）であった。延べ利用人数は、131名であった。新型コロナウイルス感染対策目的で、受け入れ条件を決め、やむなくお断りをしたこと、家庭や保育現場での感染対策の効果などの影響もあり利用者数が激減した年であった。

④次年度の課題

1. 外来スタッフとして経営に参画する
2. 働きやすい職場環境をつくる
3. 質の高い外来看護サービス・良質な保育強化に努める

2020(令和2)年度【部署名：外来・中央滅菌材料室・病児保育室「愛あいルーム」】勉強会

月	テーマ	担当者
4月	保育に関わる看護師に伝えたいこと	愛あいルーム保育士
5月	オリンパスビデオシステムの使用方法	内科・耳鼻科チーム
6月	ストマとは？（最新のストマケア・薬剤の使用について）	長山千沙（細木病院）
7月	化学療法（分子標的薬・ホルモン療法・免疫療法・細木病院での治療）	宇原美香（細木病院）
8月	認知症看護（認知症とは・認知症の人との接し方）	中山充代（細木病院）
9月	予防接種（接種間隔スケジュール・ロタウイルス・当院特有のルール）	小児科チーム
10月	中央材料室の業務について	中山・西村
11月	外来での呼吸器看護（COPDと喘息）	内科チーム
12月	感染管理（外来ラウンド後の課題）	土居世知（細木病院）
1月	リウマチ看護（リウマチに対する知識と看護）	森下美智子医師
2月	在宅看護（在宅における看護と外来との連携）	井上加奈子（細木病院）
3月	災害対策（外来での災害対策を考える）	片岡・印藤

（文責：外来師長 片岡 典代）

医療技術部門

薬剤室

1 概要

所属長名：小野 正英
構成職員：薬剤師 4名
 事務員 1名
 合計人数 5名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容

- ①適正な医薬品管理と薬物療法の推進により、病院経営に貢献する
- ②相手を思いやる・尊敬する

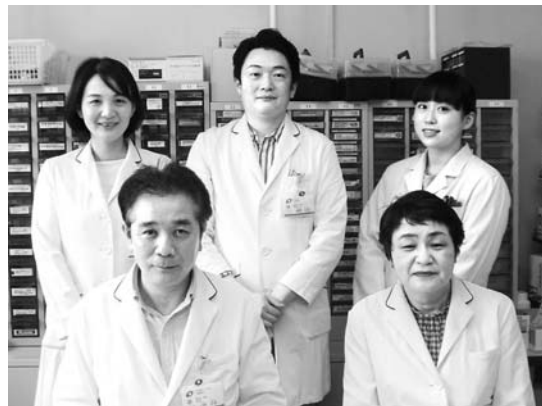
2. 薬剤の保管・管理の検討

令和2年度の処方箋枚数（内服・外用）は7,793枚であった。また後発医薬品の利用率は、平成2年において75.1%であり、後発医薬品使用体制加算3となった。後発医薬品使用体制加算2にすることが目標であったが、小林化工（株）の出荷停止および日工工富山第一工場の業務停止の影響で、他のジェネリックメーカーの医薬品に変更を考えたが供給できないとのことで、先発医薬品に変更せざるを得ない品目が多数あった。このことより、医薬品の供給体制について検討する必要があると考える。

3 今後の課題

○電子カルテ導入後の薬剤室業務手順書について

令和2年2月の電子カルテ導入に伴い、処方箋の形式および受付方法の変更を行った。さらに、臨時処方



の1包化への変更を行った。また厚生労働科学特別研究の土屋先生らによる「医薬品の安全使用のための業務手順書」が平成30年版に変更となったことより、これに合わせて薬剤室の業務手順についても変更することとなった。まず初めに採用医薬品の決定方法についてマニュアル化を行った。以前から薬事委員会の手順書について変更を行っていたが形式的に書かれており、具体的な方法についての記載がなかった。そこで薬剤室では見やすい手順書として変更を行った。現在も三愛病院の共有フォルダー「薬事委員会」内に医薬品集を作成している。また共有フォルダー内から採用医薬品の決定方法が参照できるように変更し、さらには医薬品申請書などの入力ができるようにも変更を行っている。

（文責：室長 小野 正英）

放射線室

1 概要

所属長名：廣田 任成
構成職員：診療放射線技師 2名
 合計人数 2名

2 活動内容・目標に対する達成状況

前年度目標であった、検査・撮影件数の件数維持については、新型コロナウイルスの影響もあり、すべての検査・撮影において件数の減少が見られた（CT検査以外で大幅な減少が見られ、昨年度より一般撮影18%減少、超音波検査28%減少、胃透視検査13%減少、健診16%減少、全体で16%減少する厳しい状況であった）。

その他の目標については達成できた（故障時の機器



の対応と維持、CT検査の個人被ばく管理、放射線の安全管理についての指針作成、電離健康診断の届出など）。

③今後の課題

1. 今年度は新型コロナウイルスワクチン接種により、新型コロナウイルスの影響が少なくなることを願い、どのように検査・撮影件数を回復、増加させていけるかが課題になってくる。
多少ではあるが法律の改正によって、以前は撮影していなかった病棟での胃管チューブ挿入後の位置確認の撮影など多少ではあるが件数増加が期待できる。
2. 昨年度同様大きな課題として、一般撮影装置、X

線透視装置、ポータブル撮影装置の早急な機器更新をお願いしたい。

どの機器も、機器購入から20年近くがたち中には、故障した場合部品がなく修理できない機器も出てきている。X線透視装置については、いまだにフィルムを使用している。今年度こそは機器が新しくなることを願いフィルムレス化を実現と考えている。

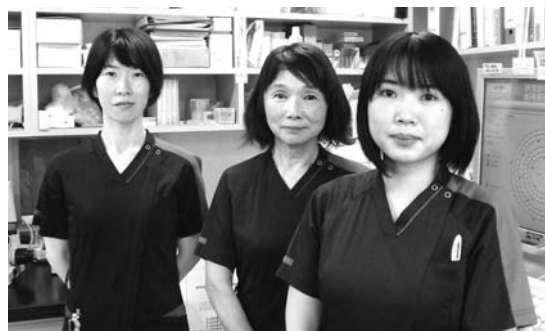
(文責：主任 廣田 任成)

**臨床検査室****①概要**

所属長名：柴田 美智子
構成職員：臨床検査技師 3名
合計人数 3名

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 手順書の見直しの継続
今回の見直しは、実際に使えるものを作ろうと目標を掲げ実際に全員が実行してみて、少しでも気付いた箇所は見直していくようにした。心電計、ホルター心電計、甲状腺測定機器など新しい機器の導入、買い替えがあり全て完成していない。
2. 甲状腺検査の実施
令和2年8月より測定を開始している。以前は、結果が後日となることで、医師にも患者さんにも不自由を掛けていたことも解決した。検査件数は、当院で検査するようになって約28%増となっている。
3. 自己研鑽
コロナウイルスの影響で計画していた研修など受講できていない。Web開催での講習会の視聴を余儀なくされている。聴力検査研修については、開催されるようであれば、順次参加させたいと思う。



に免疫・血清は、インフルエンザ検査が激減したことによると思われる。今後は、コロナのPCR検査を実施しながら、生理検査件数を増やしていけるようにする。特に、ホルター心電図検査は、機器が新しくなり患者さんの装着時の負担が減り、気軽に検査できることを知ってもらい件数増加を目指す。

2. コロナウイルスの影響で思うように研修に参加できないが、自分たちで課題や疑問を見つけ検索し、部署内で発表する形式の自己研鑽を実施していきたいと考えている。
3. コロナのPCR検査、生理検査など無理なく検査し、正確、迅速な検査の提供を目指して、他部署との連携を深めるとともに、新たな人員の確保を希望する。

③今後の課題

1. 実績件数は、血液、生化学以外減少している。特

(文責：室長 柴田 美智子)

**栄養管理室****①概要**

所属長名：石山 由香
構成職員：管理栄養士 3名
合計人数 3名
給食業務委託：富士産業株式会社 14名

- ・入院患者および入所者に対するの食事提供
- ・栄養ケア・マネジメント加算の実施
- ・低栄養リスク改善加算の実施
- ・栄養スクリーニング加算の実施
- ・外来患者の栄養指導の実施
- ・入院患者の栄養指導の実施
- ・病棟カンファレンスの参加
- ・担当者会議の参加

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容

4. 各病床の役割に必要なリハビリテーションの提供
5. 訪問事業の拡大
6. 感染対策の徹底と患者受け入れの準備
令和2年度も感染症の影響が継続する中、地域包括ケア病床という新たな取り組みに向けて実績づくりを行った。入退院の日程調整や環境設定のスピード化に取り組み、大きな問題点はなかったが、入床人数による不効率は今後の課題と

なる。

令和3年度は、これまでの実績づくりを踏まえて本格始動を安定して実施していくことに加え、予測されるコロナ後患者の受け入れに向けて、新たな手順の作成と実施体制の構築を図る。

(文責：課長 門脇 貴代)

□ リハビリテーション課 理学療法室

①概要

所属長名：門脇 貴代

構成職員：理学療法士 9名

合計人数 9名



②活動内容・目標に対する達成状況

1. 地域に信頼され期待されるリハビリの提供
令和元年より開始となった民間介護予防事業「紡」での健康教室を月2回実施することが定着してきた。スタッフ各々が得意とする分野や興味のある内容を選択し、参加してくださる方楽しんでいただくための工夫を凝らしている。途中コロナ禍により開催が休止していたこともあったが、全体で合計11回実施ができた。
2. 病院～在宅・施設など各生活への適応を目指したリハビリテーションの提供

地域包括ケア病床が開始となるに伴い、令和2年12月より実績のための取り組みを行ってきた。一般病棟との違いを課長、他主任と確認するとともに、スタッフへの周知を再行った。また必要書類の作成、担当患者の振り分けなど、効率的、円滑に行えるよう準備を行ってきた。

また、コロナ禍で在宅復帰の患者の自宅訪問が行えない中、ケアマネージャーや家族の協力のもと情報収集を行い、在宅生活に必要な訓練を実施しなければならない状況であった。実際の動きが確認できない中での訓練は手探り状態となったが同時に、担当スタッフだけでなく他スタッフとも協力しアドバイスをを行うなど、新たなチームアプローチが形成できたと思う。

3. 採算性への努力・改正に応じた書類作成
電子カルテシステムが導入され1年が経過し、システムの操作には全員が慣れてきており、時間の短縮、確実な書類の作成などにつながっている。毎月の目標実施単位数においても、以前より行っ

ている毎月のミーティングにおいて一人ひとりが自分の単位数を目にすることで動機付けになっている。土曜日や担当PTの休みの日のフォロー体制も確立しており、単位数の取りこぼしはほぼなくなっている。

③今後の課題

1. 今後も引き続き「紡」の参加を続けていき定着化を図るとともに、マンネリ化を予防するため、テーマ別のシリーズ化や、内容もリハビリテーション関連にとどまらず、広い視野で時代に即した内容などを検討していきたい。
2. 一般病棟、包括ケア病床、介護医療院と形態の違う病棟を全員が担当しており、それぞれに単位の取り方や必要書類が違うため、今後も抜けや間違いがないようにしていく必要がある。電子カルテになったとはいえ、単位数のチェックなどは主任や助手が行っており、月報と医事課との点数の確認では減少傾向にあるものの、いまだに間違いが見つかり、修正が必要な状況にある。今後も時間の効率化を図りながら、ミスを減らす工夫が必要である。

(文責：主任 濱田 くるみ)

□ リハビリテーション課 作業療法室

①概要

所属長名：門脇 貴代
構成職員：作業療法士 5名
合計人数 5名

②活動内容・目標に対する達成状況

- 地域に信頼され期待されるリハビリの提供
近隣のマルナカー宮店にて開催されている、民間介護予防事業「紡」へのリハビリ課からの月2回の講師派遣が定着し、OTも「肩こり」「イスの選び方」をテーマに2回講座を担当した。参加者の増加を目指し、ニーズに沿ったテーマや内容を考えることは、大変貴重な経験となった。
- 各病棟の役割に必要なリハビリの提供
今年度は包括ケア病床が始動となったが、手探りで実施する中で、書類や介入の仕方などを効果的・効率的に行うために、新たなシステムの構築が求められた。また、患者さんを短時間で在宅に帰すために必要な、スピード感を持った対応、これまでは件数が少なかった、上肢の整形外科疾患や家事動作の評価・訓練など、OTとしてのスキルが問われる場面も多く、課題が浮き彫りとなった。包括ケア病床に関する外部勉強会への参加も予定していたが、コロナ禍において中止が相次ぎ、リハビリ課内での勉強会や自己学習が主となった。
- 採算性への努力
限られた業務時間を効率的に使うため、セラピス



トごとに具体的な改善策のアドバイスを適宜行った。また、各病棟の機能とリハビリの必要性、採算性を考え合わせながら介入頻度を調整した結果、目標単位（18単位/日）の95%の算定をおおむね達成できた。

③今後の課題

- 包括ケア病床の開設に伴い、今後も整形外科疾患の患者さんが増えていくことが予想される。Zoomを含めた勉強会への参加や、OT内でのケーススタディを通して、知識、技術の底上げを図ることが必要である。
- 独居で在宅復帰を目標とする患者さんが増えてきており、OT室に和室や洗濯スペース、台所がないというハード面の不足を補うための工夫が必要である。

(文責：主任 竹倉 佐和子)

□ リハビリテーション課 言語聴覚療法室

①概要

所属長名：門脇 貴代
構成職員：言語聴覚士 4名
合計人数 4名

②活動内容・目標に対する達成状況

- 地域に信頼され期待されるリハビリテーションの提供
民間介護予防事業「紡」において、口腔・嚥下機能に関する研修を2回開催した。口腔機能と健康寿命に対する関心は年々高まりを見せており、参加者からも活発な質疑応答があった。
- 病院～在宅・施設など各生活への適応を目指したリハビリテーションの提供
地域包括ケア病床の実働に向けて、評価や目標設定、必要に応じた訓練内容の見直しなど、今まで



以上にスピード感をもって行うように努めた。特に嚥下障害患者について、必要な時期に適切な評価および検査を行い、本人に合った食事形態の提供が行えるようになった。

- 採算性への努力
業務効率に関する課題について個々に確認し、実務と書類業務が効率よく行えるよう話し合いを

行った。その結果、ばらつきがあるものの目標95%を達成できる月が増えた。

4. 改正に応じた書類作成

電子カルテ導入に伴い、新たな主任業務が追加された。特に月中、月末の締め業務は慣れない作業に時間を費やすことが多く、実務と並行して行うためミスも多かった。締め業務の手順を作成し、主任3名で分担して行うことにより、正確さやスピードも徐々に向上した。

③今後の課題

今年度も、地域に根差した病院づくを目標にさまざまな取り組みを行ってきた。言語聴覚士はリハビリ分野の中でも認知度が低く、業務内容も知られていないことが多い。言語聴覚士についての啓蒙活動を行うとともに、地域住民がどのようなことに困っているのか、何を知りたいと思っているのか常にアンテナを張り、ニーズに合った研修の実施につなげていきたい。そして、口腔機能低下による疾患の予防に少しでも貢献できるよう取り組みを継続していきたいと考える。

(文責：言語聴覚療法室主任 谷口 桃子)

□ リハビリテーション課 訪問リハビリテーション三愛

①概要

所属長名：門脇 貴代

構成職員：理学療法士 2名

合計人数 2名



②活動内容・目標に対する達成状況

1. 他職種との連携

他職種間で利用者の目標達成状況や情報共有を行うことで統一したサービス提供ができ、早期に目標達成することができた。また、リハビリテーション課スタッフと情報共有を行うことで身体機能やADLのさらなる向上を目標に挙げることができ利用者のQOL向上に貢献できた。

2. 広報活動の実施

地域介護予防の一環として、運動教室へ参加し地域の方々の健康増進に努めるとともに広報活動を行った。また、各事業所に対しチラシの配布を行い周知した。

③今後の課題

今年度、数名の利用者が社会活動をできるようになるなどQOL向上に貢献することができた。このような個々の利用者ニーズを実現できる訪問リハビリを目指す。また、利用者増加に向け広報活動を継続的に行っていく。これらの実現のため、さらなる自己研鑽に努めるとともに、来年度には介護保険の改定に向けた情報収集と新たなマニュアル作成に取り組む。

(文責：理学療法士 松坂 篤)

地域医療連携室

①概要

所属長名：戸田 里子 (師長)

澤田 恵里 (主任)

構成職員：看護師 2名

社会福祉士 3名

合計人数 5名



②活動内容・目標に対する達成状況

1. 安定したベッドコントロール

令和2年9月より、医療相談室から地域医療連携室へ変更となり、入退院専従の看護師と外来担当看護師の2名が配属され、外来での情報収集と病棟スタッフとの入院調整がスムーズとなった。

令和2年度の入院相談件数は241件。入院相談会

の他、院長に協力を得て適宜個別で受け入れ調整を実施したのが241件中68件。相談件数の増加とベッド稼働に努めた。受け入れ可件数は106件、受け入れ率は43.9%。病状的に対応困難なケースや入院の条件に合わないケースも多く、前年度受け入れ率46.5%に比べ、受け入れ率の向上には至

らなかった。

機関別入院相談件数は、高知赤十字病院40件、近森病院30件、いずみの病院29件、細木病院28件である。以下はグラフ①参照を。近森病院・いずみの病院・細木病院は相談件数も多いが病状的に対応困難などの理由で受け入れが難しいことが目立った。

退院件数は180件で、自宅への退院が54件、施設入所が49件、転院が30件、死亡退院が47件だった。前年度は退院件数129件だったため、51件増加している。

外来病診連携件数は86件。他院への紹介が72件で大学病院への紹介が最も多かった（令和2年9月～令和3年3月までの実績。グラフ②参照を）。

2. 各種マニュアルなど、整備

電子カルテ導入から1年経過し、多職種との連携に関するマニュアルの整備を行った。特にソーシャルワーカー主体で調整する、退院支援加算、介護連携指導、退院前後訪問指導などのマニュアルを作成し、関連部署へ伝達を速やかに行った。運用しながら評価を行い、マニュアルの見直しも適宜行えた。

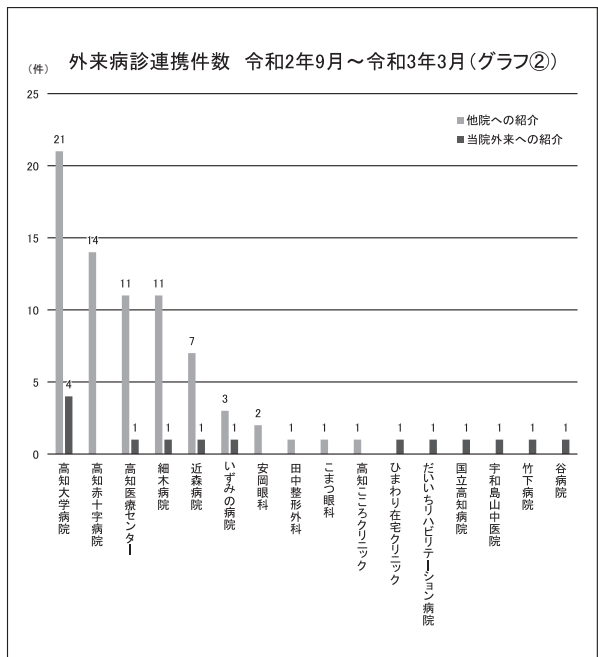
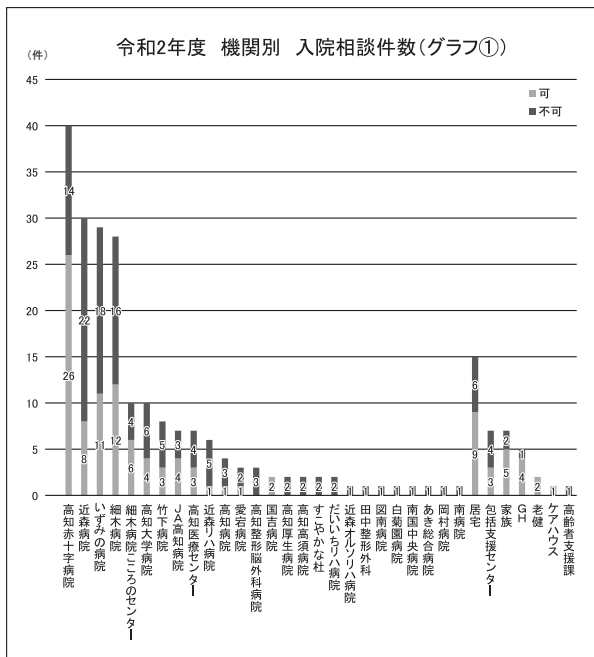
3. 仁生会ソーシャルワーカー間での情報共有

毎月仁生会のソーシャルワーカー責任者で集まり、各施設の情報共有を行った。また、年度末には高知市布師田・一宮地域包括支援センターのスタッフに講師を依頼し、ZOOMにて高知市布師田・一宮地域包括支援センターの役割や、事例を

交えて現状の報告をしてもらい、ソーシャルワーカーおよび入退院支援N sの学びを深めた。令和3年度も毎月のソーシャルワーカー責任者会をZOOMで開催して情報共有を引き続き行い、講演会の開催も検討していく。

③今後の課題

1. 全体的なベッド運用に関しては、令和2年5月から9月にかけて安定したコントロールができていたが、年度後半は包括ケア病床の運用準備のため、他機関からの積極的な受け入れが困難であった。医療相談室から地域医療連携室へ変更となり、看護師2名、医療ソーシャルワーカー3名体制となり専門性に応じた役割を担うことが可能となった。例えば、令和3年4月の地域包括ケア病床運用開始を目指し、実績期間中に相談のあったケースの入院対象病棟を速やかに判断できた。さらに、介護医療院さんあいの待機患者も的確なタイミングで契約を行い、スムーズな入所につなげることができた。令和3年度も継続して円滑なベッドコントロールを行っていききたい。
2. 電子カルテとなってからのベッドコントロール運用に関しては動きも定着してきたところだが、令和3年4月より地域包括ケア病床が本格稼働のため、カンファレンスの確実な実施や記録の確認など、関連部署と協力しながら確実な運用を行っていききたい。



(文責：師長 戸田 里子・主任 澤田 恵里)

事務部



事務部長
植田 宏平

1 概要

所属長名：部長 植田 宏平
構成職員：部長 1名
合計人数 1名

2 活動内容・目標に対する達成状況

『活動内容』

事務部は、総務課、医事課の2部門で構成されており、病院を円滑に運営するための企画、提案および行政の対応など行っています。

『2020(令和2)年度三愛病院事務部の目標』

病院運営への参画意識を強く持ち、実行できる、達成できる事務部門を目指す。

1. 事務職員各自が責任感をもって、それぞれの担当業務を迅速かつ正確に行う。
2. 事務職員各自が、それぞれの専門性を高め、知識、熟練の向上のため研鑽に励む。
3. 仁生会全体の方向性を把握し、法人内において積極的に協働する。
4. 病院病棟再編計画の各事業が潤滑に進むように積極的に業務に取り組む。
5. 三愛病院における新型コロナウイルス感染症対策に積極的に協働する。

達成状況

1. 介護医療院の初年度運営や電子カルテの潤滑な運用、地域包括ケア病床算定実績などに取り組んだ令和2年度において、担当者各位が責任感をもって業務に当たれたと感じる。さらに事務部門全体の知識・意識向上、スキルアップの向上に努めたい。
2. 仁生会全体の方向性の把握に努め、協働による十分な成果を上げることができたと感じる。さらに実行力を高めるよう努めたい。
3. 地域包括ケア病床の算定について改修工事や要件算定を迅速かつ確実に進め達成することができた。

令和2年度の目標に沿った取り組みの成果は以下の通りです。

1. 医師の確保
入院を担当する医師の入職により外来および入院医療体制の強化を図ることができた。
2. 「地域包括ケア病床」の開設
回復期を持つ病床への転換に係る施設・設備整備工事に係る補助申請、事務手続き、また転換工事を安全かつ確実に行うことができた。令和3年4月1日開設に向けてのさまざまな事務手続きも順調に行い無事開設することができた。
3. 新型コロナウイルス感染症対策
「検査協力医療機関」の申請および事務手続き、新型コロナウイルス感染症対策に係る補助金申請・事務処理を迅速に行い三愛病院における感染対策体制の構築に寄与することができた。
4. あうん高知増床
令和2年度老健募集をうけ、老人保健施設あうん高知の整備許可申請、介護基盤事業整備等事業費補助金申請、あうん高知増床工事および介護老人保健施設開設許可申請を行い令和3年4月1日に9床を増床した。

3 今後の課題

1. 三愛病院病棟再編計画完了後の安定した病院運営
三愛病院病棟再編計画の完了にとともに、安定した病院運営を目指す。
2. 組織力強化
事務部門全体の業務に対する意識向上に努める。またそれぞれが担当する業務の専門性を高め、能力の向上と事務部門の組織力の強化を目指す。そして三愛病院において発生するさまざまなオーダーや課題に的確に対応できる組織を目指すとともに、仁生会内において横断的に発生する課題にも確実に対応していく。今後は次世代の人材育成にも努めたい。
3. 新型コロナウイルス感染症対策
新型コロナウイルス感染症に対する検査体制の強化、ワクチン接種体制の構築や今後のさらなる流行期に対応できる診療体制の強化を図る。

(文責：事務部長 植田 宏平)

総務課

1 概要

所属長名：課長 猪森 清明
 構成職員：主任 2名
 事務員 3名
 施設係 3名
 合計人数 9名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 病院の目標と取り組みの達成に向けて積極的に関わる

- 1) 病棟再編に主体的に取り組む
- 2) 電子カルテの円滑な運用
- 3) ホームページのリニューアル
- 4) 業務の効率化とコスト削減

2. 質の向上に取り組む

- 1) 新体制での業務の定着化を図る
- 2) ホウ・レン・ソウの徹底
- 3) 整理整頓を行い、コスト意識を持つ
- 4) 定期的に業務に無駄がないか確認を行う
- 5) 各種マニュアルの作成・見直しを行う

令和2年度は、地域包括ケア病床開設（改修工事・入札・物品手配）や、あつん高知増床（改修工事・入札・物品手配・届出申請）など大きな業務に取り組めた。電子カルテについては、不具合などあればその都

度対応を行い円滑な運用に努めた。ホームページのリニューアルに関しては、現在進行中で来期の目標として完了させたい。また新型コロナウイルス感染症関連の業務が大きなウエイトを占め、慰労金給付や補助金・交付金申請、検温トリアージなど、多岐にわたって取り組むことができた。

3 今後の課題

引き続き、新型コロナウイルス感染症関連業務が大きく関わってくることが予想される中、病院の目標と取り組みの達成に向けて積極的に関わることを第一に、総務課員でも情報共有を行いながら、取り組んでいく。

（文責：総務課長 猪森 清明）

医事課

1 概要

所属長名：山本 淑恵
 構成職員：
 医事課長 1名
 （診療情報管理士・施設基準管理士）
 主任 2名（入院・外来 各1名）
 入院事務 2名
 （病棟・診療情報管理室 兼務）
 外来事務 7名（うち嘱託1名）
 介護事務 3名
 （介護医療院・老健・介護施設等全般）
 合計人数 15名



具体的な取り組み

1. 業務体制の見直し、コミュニケーション能力の強化

業務全体の把握、課題の掘り起こしを行い、業務体制の強化と効率化を推進した。

これによって労働環境の健全化が進み、残業時間の削減と有給休暇の取得率アップにつながった。また、他部門や関係部署間と、タイムリーな話し合いを持つことで、問題点への早期の対応や解決につながり、良好な関係性を築くことができるようになった。

2 活動内容・目標に対する達成状況

目標：視点を変える 視野を広げる

医療事務という視点から、医療従事者としての視点へ。

広い視野で病院全体を見る、ものの考え方やさまざまな業務に対する柔軟性や対応力を養う。

広い視野で全体を見ていくことで、事務部としてだけでなく、医療従事者としての意識を高め、接遇力、対応力の向上に現在も力を入れている。

2. 医事業務の精度向上と個々のレベルアップ
電子カルテを導入したことで、最新情報のインプットアウトプットがより必要となり、部署内での情報共有の強化と、定例勉強会の充実化を図った。また、毎月1人を講師担当にすることで、担当業務にかかわらず、業務に対する責任感や習熟度アップにつながってきており、結果、診療報酬算定率およびレセプト精度も向上し、査定率も低く安定した状態が継続している。

※診療情報管理室が再稼働したため、診療情報関連の目標達成度については、診療情報管理室に転記した。

③今後の課題

新型コロナ禍で、今後も医事課として業務体制の変化に対する柔軟性や対応力の強化に努めるとともに、本来の業務である診療報酬改定に備えた最新の情報収集や、研修会などへの積極的参加を促し、医事業務と診療情報管理の両立化も図っていききたい。また、関連部署との連携を密にし、患者さまの立場に立った優しい窓口となるよう努力していく。

(文責：医事課長 山本 淑恵)

診療情報管理室

①概要

所属長名：山本 淑恵

構成職員：

医事課長・診療情報管理士・	
施設基準管理士 兼務	1名
入院事務・診療情報管理室 兼務	2名
合計人数	3名



②活動内容・目標に対する達成状況

1. 診療情報管理室の体制強化と専門性の発揮
昨年度から、診療録管理体制加算を再届出することができ、今年度から、診療情報管理室も再稼働することができた。また、電子カルテの導入により、レセプトコンピュータとの連動や、さまざまなデータの集約、分析も行えるようになり、データ提出加算も届出することができた。診療情報管理室が稼働したことにより、以下の業務の充実化を図ることができた。
 - ①診療情報管理指針に沿った一元管理
 - ②詳細な疾病分類コーディング
 - ③データ提出および分析
 - ④紙カルテの現状把握と一部廃棄

2. 施設基準の総合的管理体制の強化
地域包括ケア入院医療管理料1取得に必要な準備や確認を行い、無事に受理された。また、既届の施設基準についても確認作業を開始した。

③今後の課題

診療情報データの利活用や、データ分析の充実化を図るとともに、個人情報保護の重要性も踏まえ、診療情報管理委員会やシステム担当者などと連携しながら、病院内の診療情報管理体制を構築していきたいと考えている。

また、診療情報管理士、施設基準管理士としてのスキルを発揮し、病院全体の状況把握に努め、現基準の精査および新規施設基準など、一歩先を見据えた施設基準の提案を行っていききたい。

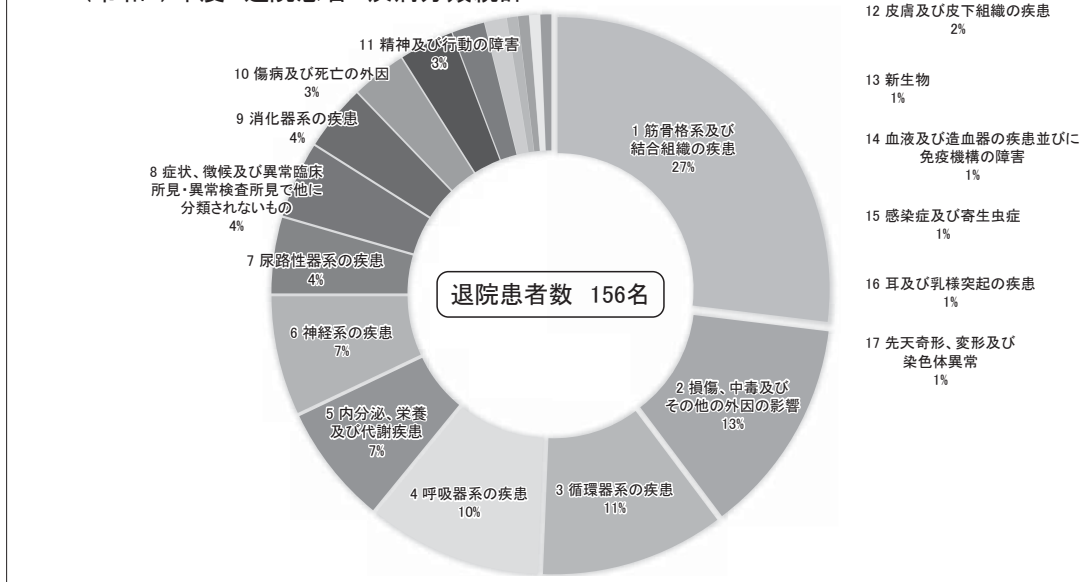
2020(令和2)年度 退院患者 疾病分類統計

	I C D 10大分類	件数
1	筋骨格系及び結合組織の疾患	42
2	損傷、中毒及びその他の外因の影響	20
3	循環器系の疾患	17
4	呼吸器系の疾患	16
5	内分泌、栄養及び代謝疾患	11
6	神経系の疾患	11
7	泌尿器系の疾患	7
8	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	7
9	消化器系の疾患	6
10	傷病及び死亡の外因	5
11	精神及び行動の障害	5
12	皮膚及び皮下組織の疾患	3
13	新生物	2
14	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	1
15	感染症及び寄生虫症	1
16	耳及び乳様突起の疾患	1
17	先天奇形、変形及び染色体異常	1
18	眼及び付属器の疾患	0
19	妊娠、分娩及び産じょく<褥>	0
20	周産期に発生した病態	0
21	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0
		156

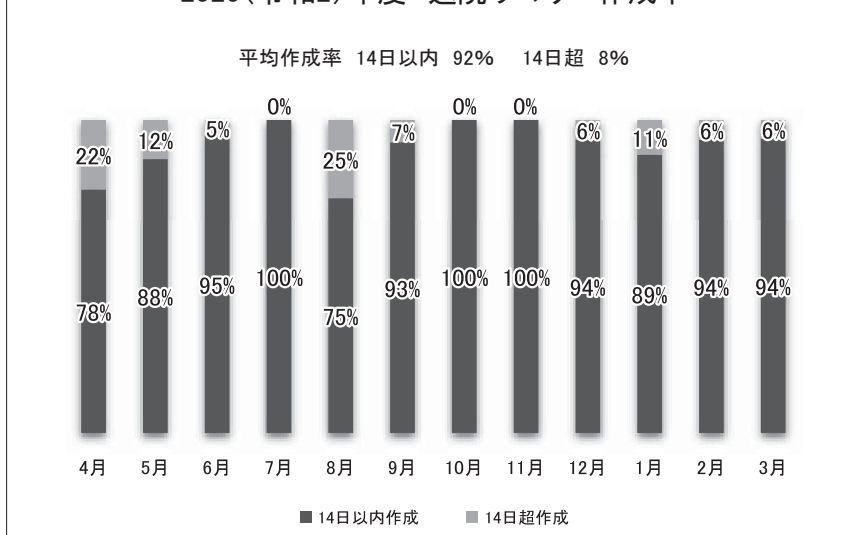
2020(令和2)年度 退院サマリー作成率

	14日以内作成	14日超作成	1カ月内作成	1カ月超過作成	退院数
4月	78%	22%	100%	0%	9
5月	88%	12%	100%	0%	8
6月	95%	5%	100%	0%	20
7月	100%	0%	100%	0%	7
8月	75%	25%	100%	0%	8
9月	93%	7%	100%	0%	14
10月	100%	0%	100%	0%	19
11月	100%	0%	100%	0%	13
12月	94%	6%	100%	0%	16
1月	89%	11%	100%	0%	9
2月	94%	6%	100%	0%	16
3月	94%	6%	100%	0%	17
平均	92%	8%	100%	0%	156

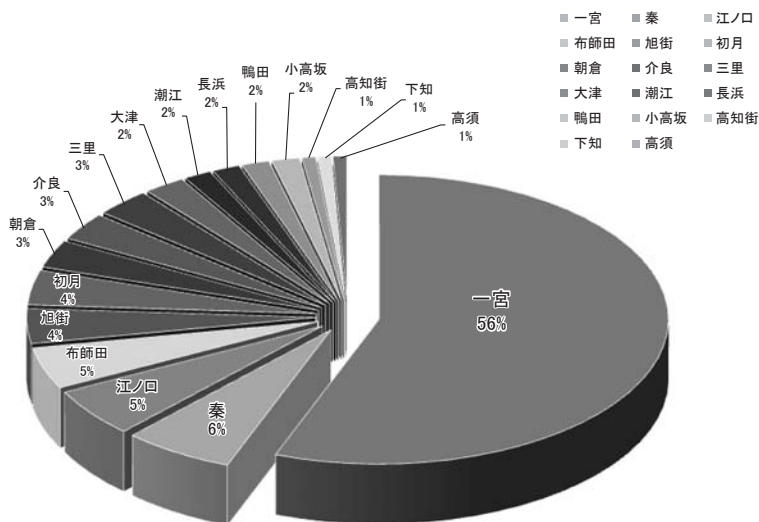
2020(令和2)年度 退院患者 疾病分類統計



2020(令和2)年度 退院サマリー作成率



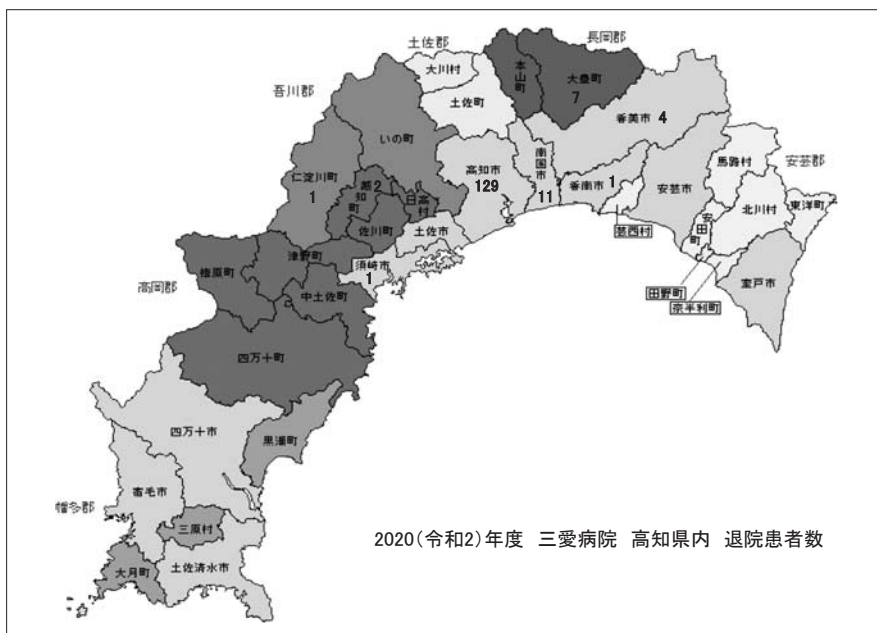
2020(令和2)年度 三愛病院 高知市内退院患者 診療圏別割合



2020(令和2)年度 三愛病院 高知市退院患者 診療圏(大街区分別)



高知市	令和2年度
一宮	72
秦	8
江ノ口	7
布師田	6
旭街	5
初月	5
朝倉	4
介良	4
三三	4
大津	3
潮江	2
長浜	2
鴨田	2
小高坂	2
高知街	1
下知	1
高須	1
北街	0
南街	0
上街	0
春野町	0
五台山	0
鏡	0
浦戸	0
土佐山	0
御豊瀬	0
合計	129



2020(令和2)年度 三愛病院 高知県内 退院患者数

(文責：医事課長 山本 淑恵)

居宅介護支援事業所「一宮」

1 概要

所属長名：和田 真樹

構成職員：主任介護支援専門員 1名
 介護支援専門員 3名
 合計人数 4名

2 活動内容・目標に対する達成状況

地域に根差した居宅介護支援事業所として、要介護（要支援）認定を受けた在宅で生活されているご利用者、ご家族からの相談に応じている。アセスメントに基づき自立を目指した居宅サービス計画が立案できるよう、週1回以上の定例会（事業所内勉強会や事例検討会）を開催し質の高い事業所を目指して活動することができた。

新型コロナウイルス感染症第1波の時期には、サービス利用控えによるご利用者のADL低下やそれに伴うご家族の介護負担増加などがみられたが、『withコロナ』が定着して以降は大きな影響がなかったことは幸いであった。

1. 総合事業に対応し、特色ある事業展開を図る

介護福祉士、社会福祉士（精神保健福祉士）、看護師という基礎資格を生かしながら、介護支援専門員としてのアセスメントやマネジメント力を向上させられるよう、業務報告内のディスカッションや事例検討会の機会を有意義に活用できた。

新人職員を育成中であるが、ケアマネ一人当



りの実績件数を31.5件までアップさせることができた。

2. 利用者目線とニーズに合った必要とされるサービス提供ができる人材育成、相互共有を図る

質の高い事業所運営の結果として特定事業所加算Ⅱの算定を継続できている。

他法人との事例検討会については新型コロナウイルス感染拡大に伴い休止しており、コロナ禍でも開催できる方法を模索中である。

3 今後の課題

1. 新人ケアマネジャーの育成を継続し、一人当たりの担当件数35件を目指す。
2. 地域に根差した居宅介護支援事業所として、インフォーマルを活用した支援を行う。

（文責：主任 和田 真樹）

デイサービスいろは

1 概要

所属長名：竹口 伸也

構成職員：看護師・機能訓練指導員兼務 3名
 柔道整復師・機能訓練指導員 1名
 介護福祉士・生活相談員兼務 4名
 介護福祉士 1名
 看護助手 3名
 生活相談員 1名
 合計人数 13名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 通所介護に期待される役割発揮のために、チーム力を向上させる。

新型コロナウイルスの影響もあり、年度の初め

は新規相談数の減少や予防のため休む方もいた。

感染予防のため、消毒や換気、マスクの着用の徹底、黙食など徹底して行ったが、利用者の目に

も見える形で行うことで安心していただけた。また、感染予防を念頭に置き、生活相談員の業務の見直しを行いながら、職員間で情報を共有しなおすことで、利用者の生活状況に配慮した対応を行うことができた。そのことにより新規利用相談からスムーズに受け入れができ、新規利用だけでなく、既存利用者の利用回数の増加にもつながり、年間を通しての利用数の増加となった。

(年間利用率 77.4% 平均利用数 23.2名/日)

2. 地域に根差した事業所運営に努め、地域の相談窓口となる。

新型コロナウイルス感染予防のため、地域行事はほとんどが中止となり、「サロン・ド・いろは」も休止となっている。地域事業としては活動できていないが、包括支援センターや地域のふれあいセンター、地域内の各種団体とのつながりは継続している。

3. 自己研鑽力を高め、自身の資格に恥じない継続学習を行う。

年度の前半は新型コロナウイルス感染予防のた

め研修会の中止なども多く集団での研修を躊躇することもあり、資格取得や自己研鑽につながる活動を十分に行うことができていなかった。後半には、リモートでの研修も増えてきており、自宅や部署内から参加できるため研修参加が増えている。

③今後の課題

1. 新型コロナウイルス感染予防のため、利用者間での接触や交流、役割を持てるような活動、季節行事などが制限されている状態にある。アフターコロナ、ウイズコロナを見据えて、利用者が通所介護の中で役割を持ち、自立して在宅生活を継続できる活動を再構築する。
2. 各職種それぞれのマニュアルの整備と合わせ、事業所内で技術、業務の基礎の振り返りを行い、技術の再習得とマニュアルの周知を行う。

(文責：管理者 竹口 伸也)



グループホームいろは丸

①概要

所属長名：管理者・主任 森岡 明美

構成職員：管理者・介護支援専門員	1名
計画作成者・介護福祉士	1名
介護福祉士	14名
看護助手	3名
合計人数	19名

②活動内容・目標に対する達成状況

1. グループホームの特性を生かした生活環境を提供する

今年度は、新型コロナウイルス感染予防の対応で利用者の生活自体にも、さまざまな制限が求められた。心の支えとなる家族とも思うように会えず、気分をリフレッシュさせてくれる外出にも出掛けられず。安心できる生活環境を提供するために家族や職員間での情報交換を密にし問題解決への話し合いを行い、チームケアを意識して業務に取り組んできた。

2. コミュニティーの一員として、地域とのつながりを大切にする

新型コロナウイルス感染予防の対応で、運営推進会議の開催が中止となり紙面上での報告のみとなってしまった。施設周りの小学校や福祉施設での行事についても、縮小や中止が相次ぎ、参加・交流が困難な状況であった。



3. 良質なケアが提供できるよう、自己研鑽に励む
当事業所の介護職員の8割は介護福祉士の国家資格を持った有資格者であり、その資格を業務上において十分に発揮できるようさらなる研修や資格取得へのチャレンジを行ってきた。感染予防により、研修の中止や延期もあった中で参加できた研修について部署内での伝達講習を行うなどスキルアップに努めることができた。

③今後の課題

現在いろは丸で在席されている入居者の平均年齢は90.6歳と超高齢化で、日々お元気に過ごされている方でも急な体調の変化から、入院・退居へつながってしまうこともある。日ごろより地域や院内の中で連携を図り、スムーズな対応ができるよう情報交換を行っていく。

(文責：管理者・主任 森岡 明美)



高知市布師田・一宮地域包括支援センター

1 概要

所属長名：小松 めぐみ	
構成職員：看護師	2名
社会福祉士	1名
主任介護支援専門員	1名
合計人数	4名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 地域の相談窓口としての周知を図るため地域住民の活動への参加。

地域の相談窓口として電話や来所の他、いきいき百歳体操会場、認知症カフェ、民協定例会など、地域活動に年間117件参加することで、相談窓口の周知・ネットワークづくりを行った。その結果、相談延件数は平成31年度の3,418件から令和2年度は4,663件と1,245件増加。また、新型コロナウイルス感染予防自粛により外出を控える期間があったが、来所相談者も平成31年度161件から令和2年度は297件に増加した。

2. 3職種によるチームアプローチができるよう各専門性の理解と業務の共通認識を持ち支援にあたる。

令和2年度より3職種が配属となりそれぞれの専門性を生かした視点からチームアプローチを行うことで、地域ケア会議、認知症総合支援事業、権利擁護、生活支援体制整備事業などに取り組むことができた。とりわけ多重問題を抱える事案や認知症初期集中支援、高齢者虐待対応については各関係機関と連携を図りながら事業所としてチームアプローチが発揮でき、必要な支援につなげることができた。

3 今後の課題

1. 令和2年度においては、新型コロナウイルスによ



り感染予防の観点から度重なる地域活動の休止もあり、新しく担当地域となった布師田・久礼野・重倉地区での活動が十分とは言えず、継続して地域のネットワークづくりや顔なじみの関係が構築できるよう、コロナ禍でも可能な広報活動を実施し、周知を図るとともに、地域包括支援センターとしての役割を果たしていく。

2. 令和3年度は高知市の地域包括支援センターが全域編成され、主任介護支援専門員や社会福祉士の専門職ごとの会合も持ち、専門職としてさらなる地域包括支援センター内での役割を担い、業務を遂行していく。
3. 地域包括支援センターとして活動する中で高齢者虐待、権利擁護、認知症に対する支援、家族の多重問題など、多岐にわたる課題と直面する。課題解決に向けて地域住民や関係機関との連携、情報共有が不可欠であり、令和3年度は認知症および高齢者虐待に対する早期発見、予防に重点を置き、出前講座などを通じての啓発・防災を含めた地域づくりについても住民や各関係者とともに取り組んでいく。

(文責：管理者 小松 めぐみ)

老人保健施設あうん高知

概要

①概要

施設長：細木 秀美

副施設長：小松 雅理

②活動内容、事業内容等

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、4月7日には7都府県に対して緊急事態宣言が発出され、同16日には残る40道府県も含まれることとなる中スタートした。全国規模の各種研修会や大会などがすべて中止、延期となり、先が見通せない中で感染対策に欠かせない衛生材料の高騰や供給不足、病院や介護施設での大規模クラスター発生など、流れるニュースは新型コロナ一色に染まった。当施設も、緊急包括支援交付金などを利用し、感染対策備品の購入やリモート環境を整え、外部会議体や研修への参加を制限、職員に対しても厳しい行動制限をかけ、施設内にウイルスを持ち込まないよう徹底して感染対策を講じた。しかしその弊害として、強い面会制限を長期間継続することとなり、入所者およびそのご家族には精神的に大きなストレスをかける結果となったことは、職員にとって断腸の思いであった。通所リハビリについては、特に高知市内の感染者数が増加すると、利用控えが増え、ひと月当たりの感染対策目的での利用控え延べ数が100を超えることもあった。県内が第3波を迎えた12月ごろには、ご利用者家族から陽性者が発生し、利用者本人が濃厚接触者となるケースや職員家族の濃厚接触者報告が増加し、それまでとは異なり明らかに身近に感染が迫ってきた感を強くした年末年始



施設長 細木 秀美

であった。感染対策に追われた一年ではあったが、利用者のご家族皆様のご協力と職員の頑張りによって、冬場の感染症を含め感染症発生がなく年度を終えることができた。

新規事業として、高知市高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画に基づく介護老人保健施設整備事業に応募し、あうん高知入所部分の増床に関する許可を受けることができた。令和2年12月より増床工事とそれに伴う通所リハビリ縮小工事を開始。関係する工事業者の皆さんには、事前に感染対策に係る協力依頼事項を共有し全面協力を得て、無事令和3年3月末までにはすべての工程が完了できた。

③次年度の課題

令和3年度は、介護報酬改定があり、今まで以上に大幅な改定内容となっている。特に科学的介護推進体制については、まだ国のシステムも十分に整備されていない状況の中での対応が必要となるため、下準備をしっかりと行って臨む必要がある。また、増床によって66床から75床になるため、入所者へのサービスの質の担保に、より一層取り組む必要がある。

(文責：副施設長 小松 雅理)



あうん高知入所



副施設長
小松 雅理



①概要

病棟形態：介護老人保健施設

長期入所、短期入所

病床数：66床

所属長名：フロアマネージャー 嶋崎 由季

構成職員：看護師 4名

准看護師 5名

介護福祉士 18名

看護助手 8名

介護支援専門員 2名

支援相談員	3.5名
理学療法士	3.5名
作業療法士	1名
言語聴覚士	1名
合計人数	46.0名

2 2020(令和2)年度 目的・目標

1. ベッド稼働率95%以上、在宅復帰・在宅療養支援等指標60以上
2. 老健に期待される役割発揮のために、チーム力を向上させる

3 目標に対する取り組み

1. 平均ベッド稼働率は92.3%であった。体調不良による医療機関への入院、他施設への入所、看取りケア対象者の死亡退所などが重なった月は稼働率が低下した。

在宅復帰・在宅療養支援等指標（最高値：90）のポイントによって決まる老健の分類（基本型・加算型・強化型・超強化型・その他型）は、60ポイント以上の在宅強化型を維持した。新型コロナウイルス感染症の流行状況により、自宅や他施設への訪問の見合わせが発生した。

家族や他施設より生活環境の写真などの情報提供を受け、入所生活の中で到達すべき改善目標を設定して、身体機能や生活動作の向上に取り組んだ。

退所前には、本人の動作や介助方法、居室環境などをiPadで撮影し、家族や関係機関に情報提供するなど、コロナ禍でも必要な連絡調整が滞らないように努めた。

2. 新型コロナウイルス感染症対策として、面会制限

や職員の行動制限を実施。施設内の感染対策強化のために、拭き取り消毒の徹底、食堂のテーブル配置変更やパーテーション設置、拭き取り消毒が可能なベッドマットレスやクッション・車椅子類の追加購入などを行った。利用者には食事時間以外はマスク着用を促したが、認知症の方が外してしまう場面もあり、繰り返し声掛けや介助を行った。令和3年1月4日からは利用者や家族の希望を確認のうえ、入所前のPCR検査を実施している。

職員指導として、感染委員が手指消毒や吐物処理の実技確認、リスク委員が配薬手技の確認やヒヤリハット発生時の現場検証と対応策の周知などを実施した。

自宅などへの退所支援のために、各専門職の視点で課題の洗い出しやアプローチ方法について意見を出し合い、個人別の取り組みを行った。その結果、自宅へ26名、在宅系施設に20名の方が退所することができた。

高知市高齢者保健福祉計画第7期介護保険事業計画に基づいた増床許可を受け、令和2年12月より工事着工し、令和3年3月に完了した。

4 次年度の課題

1. ベッド稼働率95%以上、在宅復帰・在宅療養支援等指標60以上
2. 老健に期待される役割発揮のために、チーム力とサービスの質を向上させる
3. 介護報酬改定内容を理解して対応する

（文責：フロアマネージャー 嶋崎 由季）

あうん高知 通所リハビリテーション デイケア・ファイト

1 概要

病棟形態：老人保健施設 通所リハビリテーション

病床数：24床

所属長名：三浦 恵子（介護主任）

構成職員：看護師	1名
准看護師	1名
介護福祉士	4名
看護助手	3名
看護助手・運転手	1名
社会福祉士	1名
理学療法士	2名
作業療法士	1名
言語聴覚士	1名
運転手	1名
合計人数	16名



2 2020(令和2)年度 目的・目標

1. 老健に期待される役割発揮のために、チーム力を向上させる
2. 地域に根差した事業所運営に努め、地域の相談窓口となる
3. 自己研鑽力を高め、自身の資格に恥じない継続学

習を行う

4. 新入職員が定着できる環境づくり

③目標に対する取り組み

1. 利用者の入院や体調不良による当日のキャンセルに加え、新型コロナウイルスの感染予防のため自主的に利用を休むケースもあり平均人数に達することはできなかった。

新型コロナウイルスのため利用休みの利用者に対して自宅訪問し、リハビリを提供できるサービスに変更したのは1名のみ。その他は希望がなく、感染者数が減少した頃を見合わせての利用再開となっている。

事業所としてできる範囲の感染予防策を徹底し、体調不良の早期対応を行うことで重症化させることなく経過している。

職種にこだわることなくお互いに褒めるべき点と注意しあう点を言い合える環境を整え、また毎月の接遇目標を決めることで注意すべき接遇面を意識できるように取り組んでいる。

ホールの配置変えもあり、「できない」ではなく、どうすれば利用者の安全な動線を確保できるのか検討することができた。

2. 交通ルールを守り、安全運転を心掛けている。地域の方との交流とまではできていないが、送迎時になどに挨拶をするなど心掛けて行っている。
3. 外部研修への参加は難しかったが、部署内や自己学習をする機会を設けることはできた。実践に関しては、個人評価となることが多いため現場での反映までには至っていない。
4. 新入職員の技術や知識に応じた業務内容と習得具合を把握しながら実践することができた。プリセプター以外の職員から情報を収集するなどして、部署全体での育成に今後も努める

④次年度の課題

1. 老健に期待される役割発揮のために、チーム力を向上させる
2. 地域に根差した事業所運営に努め、地域の相談窓口となる
3. 自己研鑽力を高め、自身の資格に恥じない継続学習を行う
4. 新入職員が定着できる環境づくり

(文責：介護主任 三浦 恵子)

委員会

定例会	経営会議	全 体	褥瘡対策委員会	看護部内	看護師長会
	運営会議		栄養委員会		介護主任会
	医局会		診療情報管理委員会		看護部業務報告会
全 体	医療安全管理委員会		せんだん便りの会		看護部教育委員会
	安全衛生委員会		サービス向上検討委員会		看護部感染防止対策委員会
	リスクマネージャー委員会		未収金の会		看護部接遇委員会
	院内感染防止対策委員会		臨床検査適正化検討委員会		看護部褥瘡対策委員会
	医療ガス安全管理委員会		輸血療法委員会		看護部リスクマネージャー委員会
	防災委員会		入院相談・ベッド調整会		虐待防止・身体的拘束適正化委員会
	倫理と権利の検討委員会		院内教育委員会		エンゼルケア検討委員会
	薬事委員会		医療放射線安全管理委員会		

医療安全管理委員会

1 2020（令和2）年度 目的・目標

- 定期的な院内巡回により現場のリスク状況を把握し、改善することで医療の質向上および患者・職員の安全を確保する。
- 研修会の開催により、安全管理に関する基本方針や医療事故予防および再発防止方策の基礎知識を向上させ、安全文化の醸成を図る。
- 医療事故発生時には、適切かつ迅速な対応を行い、被害を最小限にする。また、再発防止に向けた取り組みをする

2 活動内容・目標に対する達成状況

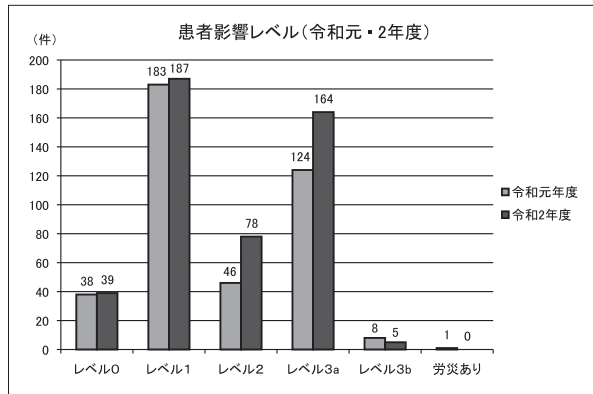
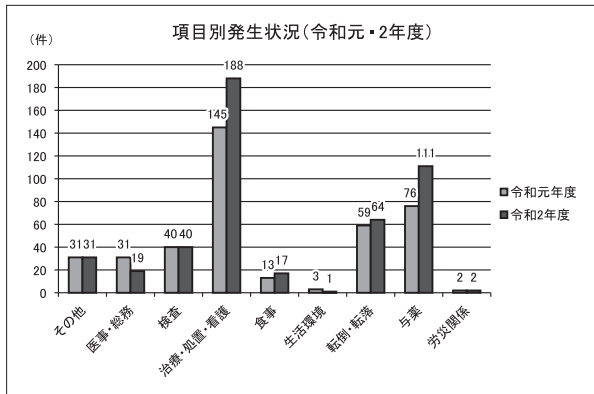
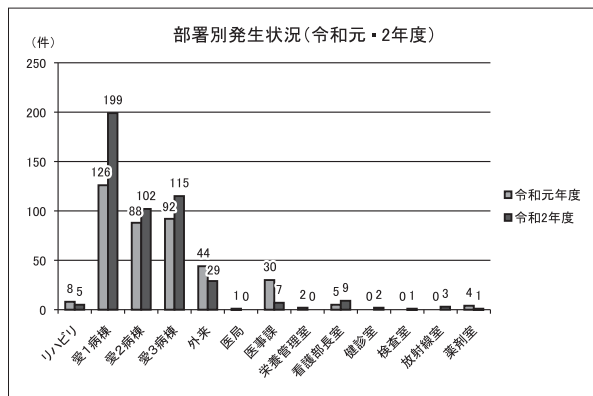
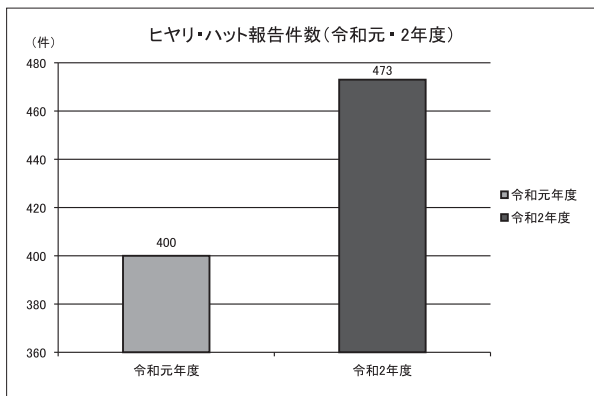
- 活動内容
 - 委員会開催：毎月 第4火曜日
 - 院内巡回：毎週月曜日（フロアごとに実施し現場へフィードバックを行う）
 - 医療安全管理マニュアルおよび、その他マニュアルの見直しと作成
 - 研修会の開催
「ハイリスク薬について」
令和2年11月25日・30日 参加者（伝達講習含む）228名（参加率82.9%）
「診療用放射線の安全利用のための研修会」
令和3年3月25日 参加者（伝達講習含む）89名（参加率31.9%）
- 目標に対する達成状況
定期的な院内巡回を週1回実施し、現場のリスク状況把握と早期発見、改善に努めることができた。

ヒヤリハット報告件数は、昨年度の400件から473件に増加している。特にスキンケア、与薬に関する事案件数の増加が顕著であった。要因としては、自立度で全介助レベルの入院患者が多く、入浴介助や体位変換後のスキンケア発見が大半となっている。与薬に関しては、電子カルテが導入されて1年が経過し、ヒヤリハット報告をもとにマニュアルの作成、見直しを行っているが、持参薬の処理や中止薬剤の処理に関する件数が多く、薬剤部との連携方法や電子カルテシステムの見直し検討が必要である。

アクシデント件数は5件と昨年度の8件より減少したが、5件とも骨折事案であった。各部署、愛護的なケア提供や再発防止に向けて取り組んでいるが、結果としてスキンケアの件数も増えており、今後の課題となった。

医療安全対策地域連携では、新型コロナウイルス感染防止対策のため、加算1施設の相互訪問が中止となった。次年度に向けて厚生労働省作成の医療安全地域連携シートを使用し自己評価に取り組んでいる。

研修会についても、新型コロナウイルス感染防止対策のため、集合研修が開催できず、各部署の管理者が代表で参加し、職員への伝達講習を行った。コロナ禍において、次年度も集合研修開催が困難なことが想定される。オンライン研修なども活用し、職員が参加しやすい調整を行い、医療安全意識の向上に努めていきたい。



(文責：医療安全管理者 戸田 里子)

院内感染防止対策委員会

1 2020(令和2)年度 目的・目標

- 院内感染の発生予防と感染症の拡大防止を図る。
- ICT活動を通して、感染防止対策を全職員で取り組む体制を作る。

2 活動内容・目標に対する達成状況

- 委員会の開催(ICC：院内感染対策委員会、ICT：感染対策チーム)
- 研修会の開催
 - 4月 感染対策指針
 - 5月 新型コロナウイルスについて、新しい生活様式、対応通知「三愛バージョン」
 - 10月 コロナウイルス感染症 最新情報
- 手指衛生の遵守率向上のための取り組み(1患者当たり約10回)
- 感染報告(毎月) 指定抗菌剤使用届け報告(毎月) 週間細菌検査検出状況(週報)
- ICT活動(手順書作成、院内環境ラウンド)
- 職業感染予防対策(インフルエンザ・B型肝炎ワクチン接種)
- 新型コロナウイルス感染症対応

研修会では、これまでと違い3密を避ける対策として、各部署より代表者1名のみ参加してもらい、その

後伝達講習をしていただくという形で開催をした。伝達講習の方法は各部署の担当者にゆだねられているため、職員の周知の度合いが分かりづらく、次年度はどのような形で開催するか検討が必要である。

手指衛生の取り組みでは、衛生材料や手指消毒剤が品薄となり、アルコールによる消毒よりも流水手洗いが主となっていたため、正確な使用量はカウントできていないが、MRSAの新規発生やその他感染アウトブレイクなどはなかったため、きちんと手洗いはできていたと思われる。

3 新型コロナウイルス感染症対応

昨年度末から流行していた新型コロナウイルス感染症は、今年度世界的なパンデミックとなり、病院の運営にも大きく影響をもたらした。院内では、新型コロナウイルス感染者対応として、患者発生時のシミュレーションやPPE着脱訓練、ゾーニングの取り決めなど、部署ごとに訓練を行った。衛生材料や手指消毒剤の枯渇から、これまでの感染対策とは真逆の対策(マスクやガウンの複数回使用)を迫られる中、受付前でのトリアージの開始や内科・小児科での有熱者に対する発熱外来、また令和2年12月からは院内で抗原検査・拡散増幅法検査の実施など、日々対応に追われた。また、職員の行動制限とともに、入院患者さんの

面会制限は一年を通して行われ、患者さんや家族の方にご不便をおかけしているが、長期的な対応を考え今後の取り組みを考えていきたい。

(文責：幹事 濱名 郁里)



褥瘡対策委員会

1 2020 (令和2) 年度 目的・目標

- 褥瘡回診・定例会の実施
DESIGN-Rを用いた評価・および検討を行い、褥瘡発生率1%以内・治癒率75%以上にする
- 予防活動

2 活動内容・目標に対する達成状況

- 活動内容
 - 褥瘡回診 1回/月(第4火曜日)
 - 委員会開催 褥瘡回診翌日
 - 研修会開催 2019年1月29日「MDRPUと予防方法について」
※新型コロナ感染対策で今年度は紙面での伝達で集合研修なし

2. 目標に対する達成状況

褥瘡の院内発生者は15名、発生率0.8%。昨年は0.4%であったためやや上昇しているが、年間目標の1%以内はクリアできている。発生部位は、仙骨部7件、左右大転子部2件、腰・背部1件、踵部3件、左足第5趾1件、左下腿1件、左足外側1件(同一人で、別部位に発生したケースあり)。

持ち込み褥瘡は11件。昨年9月から地域包括ケア病床の実績を取ることも開始され、持ち込み褥瘡を受けるケースも増えている。褥瘡部位は、腰背部・

尾骨部(ポケットあり)・臀部・大転子部・踵部・下腿部であった。ポケット形成されていた深い持ち込みケースもあったが、期間はかかっても治癒につながっている。コメディカルとの連携や、除圧、日々のケアがしっかりされていると考える。

治癒率は92.3%と、昨年から引き続き高い水準を保っていると考えられる。MDRPUは26件。昨年度は17件(うち持ち込みが2件)であったが、増加しているのさらなる注意が必要である。昨年同様バルーンカテーテルによるものが14件と多く、次に胃管5件、酸素マスク・カニューレが5件、他枕、クッション、コルセットがあげられる。前年3件あった点滴ラインは今年度0件であった。MDRPUの発生数は一定の割合であり、早期に発見・治癒につながられているが、発生をできるだけ予防していくことが、今後の課題の1つでもある。固定方法や使用物品を統一したマニュアルの活用が実際にできているのかどうか、改善が必要な部分がないか継続して検討していく。クッション管理については、その都度リハビリとやり取りできていたように思われるが、返却手順など現場で定期的に再周知をしていく必要はある。

院内勉強会開催は、新型コロナ感染症対策で開催中止となった。

2020 (令和2) 年度 実績

注) 前年度からの持ち越しなし。次年度への持ち越し2名。

	令和2年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和3年 1月	2月	3月	総計	
リスク患者数(名)	179	188	190	186	187	186	182	181	178	174	178	181	2,190	
褥瘡保有者数(名)	0	3	3	6	8	3	2	2	2	3	5	5		
発生者数	総数	0	3	1	1	5	0	1	0	0	1	1	2	15
	率	0.0%	1.5%	0.5%	0.5%	2.6%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%	0.5%	1.1%	0.8%
	持ち込み	0	0	2	3	1	0	0	1	1	1	1	1	11
治癒者	総数	0	3	1	4	5	2	1	1	1	0	3	3	24
	率	0.0%	100.0%	33.3% (6/1 死亡1名) (6/18 死亡1名)	66.6%	62.5% (8/14 死亡1名)	66.6% (9/26 死亡1名)	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	60.0% (2/9 死亡退院)	60.0%	92.3%

- 褥瘡でカウントしていた患者が血管性潰瘍に病名変更した場合は、発生時にさかのぼり発生者数・保有者数から除外する
- 治癒者：月率＝その月の保有者数に対する治癒率 年率＝その年度の発生者・持ち込み者数に対する治癒率

(文責：副委員長 大石 陵子)



栄養委員会

①2020（令和2）年度 目的・目標

1. 入院患者および入所者の提供栄養量に関わる事項について検討する
2. 入院患者および入所者の食事提供について検討する

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容
 - ・ 行事食の検討と計画
 - ・ 副食の形態について見直し検討
 - ・ 食物繊維について検討
 - ・ 令和3年度介護報酬改定に伴い栄養管理体制について検討
2. 目標に対する達成
 1. 入院患者の多くが高齢者であり各種の生理機能

の低下によって便秘になりやすく緩下剤を服用している患者は少なくないのが現状である。また、咀嚼や嚥下の状態に合わせた食事は食物繊維量が少なく1日の必要量をとることが難しい状態である。そこで食物繊維が不足している患者に対して食物繊維を食事に付加し腸内環境の改善を行い便秘の解消を試みている。

2. 入院および入所中の制限のある食事の中で少しでも楽しみや癒やしとしていただけるように四季折々の伝統行事や特別な行事の時に華やかな食事を提供できるように計画を立て献立に取り入れている。令和2年度は、年間34回の行事食を提供した。今後も入院患者および入所者に喜ばれる食事を提供できるように努めたい。

（文責：委員長 石山 由香）



薬事委員会

①2020（令和2）年度 目的・目標

医薬品の適正化並びに円滑化を図る。

②活動内容・目標に対する達成状況

令和元年度の後発医薬品の採用品目数は171剤であり、後発医薬品の採用率は約21.4%であった。また後発医薬品の使用率は年度末で76.7%となった。令和2年度の新規採用剤数は18剤、限定採用剤数は1剤、削

除薬剤数は4剤となり、そのうち、後発医薬品への変更剤数は34剤であった。また後発医薬品の使用率は令和3年2月の82.9%をピークに低下し75.1%となった。これは小林化工（株）の業務停止命令および日医工（株）の販売停止命令によって他社の製品に変更せざるを得なくなったもので、今後、後発医薬品の採用メーカーについての検討が必要と考える。

■ 2020（令和2）年度 薬事委員会 実績

	A	B	C	D
	新規採用薬剤数	限定採用薬剤数	削除薬剤数	後発変更剤数 (先発品削除)
5月14日	8	0	1	0
7月2日	0	0	3	8
9月10日	3	0	0	4
11月12日	0	0	0	21
1月7日	2	0	0	1
3月4日	5	1	0	0
総計	18	1	4	34

A+B
採用剤数合計 19

C+D
削除剤数合計 38

（文責：委員長 小野 正英）



安全衛生委員会

①2020（令和2）年度 目的・目標

1. 労働者健康の保持増進
2. 労災事故の防止、職場環境の改善
3. ストレスチェックの実施
4. 腰痛研修会の実施

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 毎月1回の委員会の開催と院内巡視
 - ・月1回の巡視で前回巡視時指摘のあった2カ所の事項について確認したところ、巡回者のアドバイスなどもあり全て改善されていた。

2. 労災事故

- 令和元年度 8件
業務災害：7件 通勤災害：1件
- 令和2年度 16件
業務災害：15件 通勤災害：1件

労災事故発生件数は、前年と比較し倍増していた。特に、針刺しおよび腰痛による労働災害が増加していた。

コロナ禍による精神的な疲労なども起因していることが予想される。

そのため、労働災害の原因および再発防止対策などを話し合い、対象職員への声掛けを行いよりよい職場環境が提供できるようにしていきたい。

・超過勤務削減についての取り組み

昨年度に引き続き、超過勤務時間の多い部署に対し委員会より所属長に改善するように声掛けをし、聞き取り調査なども実施し現状の把握を行った。

その結果職員一人ひとりの努力および電子カルテの導入に伴い、昨年度の部署合計超過勤務時間は3,900時間であったが、本年度の部署合計超過勤務時間は2,593時間にまで減少し、対前年比33.5%削減に至った。

電子カルテ導入当初は、新システム運用に時間も費やし数カ月間は超過勤務時間が増加したが、それ以降は導入効果が顕著に現れ減少していった。

3. ストレスチェック

労働安全衛生法の改正により、労働者のメンタルヘルス不調を未然に防止する一時予防を目的とし実施。

委託先の細木病院こころのセンターより送られてきた、組織診断報告書・部署ごとの組織別ストレス状況を各部署長に配布。

- ・調査対象者 250名
- 受検者数：246名（受検率：98.4%）

4. 腰痛研修会について

新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮し今年度は開催を見送った。

（文責：委員長 植田 宏平）



防災委員会

当委員会は防災管理業務の適正な運営を図ることを目的とし、防災管理体制の整備、教育、訓練を行ってきた。本年度の主な取り組みについては以下に記します。

①2020（令和2）年度主な取り組み

1. コロナ禍により消防訓練を縮小して実施（8月・3月）
2. 風水害訓練内容の定例化（介護施設）（8月）

本年度はコロナの影響により訓練を縮小し、密にならないように行った。

②2021（令和3）年度の目標

令和3年度の目標として、介護施設で災害訓練を行う際、地域住民を交えての訓練を行えるよう内容を作成していきたいと思っております。

（文責：防災管理者 総務課主任 鳴瀧 有人）



サービス向上委員会

当委員会は、患者さまから寄せられる苦情のほか、種々の病院サービス向上のための意見・提言を聴取し、患者さまに質の高い医療サービスを提供すること、また職員からも職場環境、患者サービス改善案などを意図的に収集し、働きやすい職場づくりに貢献することを目的に発足しました。

令和2年度の主な取り組みは右記になります。

①2020（令和2）年度の主な取り組み

- ①ご意見箱の回収、対応、回答
- ②相談受付簿の検討、対応
- ③職場環境の改善、患者サービスの改善
- ④令和2年度退院アンケートの集計、報告
- ⑤令和2年度入院満足度調査の集計、分析
- ⑥新型コロナウイルス感染症に対応したサービスの変更や中止の検討

（文責：サービス向上委員会 委員

事務部長 植田 宏平）

三愛病院 令和2年度 院内研究発表会

開催日：2021年2月13日(土)
 開催時間：13：30～15：30
 開催場所：三愛病院5階会議室

演題・内容	発表者○
開会の挨拶	院内教育委員会委員長 橋詰 稔
オリエンテーション	司会：石山 由香
演題発表 Aグループ	座長：戸田 里子
1)「介護医療院」開設と運用開始後の取り組み	介護医療院さんあい ○津野 順子
2) 通所リハビリにおける新型コロナ感染対策についての取り組み ～利用者を守ることがあうん高知を守る！～	あうん高知通所 ○多田 千恵
3) 当院看護部におけるワークライフバランスの取り組み	ワークライフバランス推進委員会 ○光森 佐和美
演題発表 Bグループ	座長：竹口 伸也
4) WE ARE CHECKMAN!! ～介護保険請求業務について～	医事課 ○福井 志歩
5) 少量高カロリーカップゼリー導入による喫食率改善と厨房業務軽減の両立	栄養管理室 ○土居 恵莉菜
6) I型糖尿病を発症した全盲患者への療養支援	外来 ○片岡 典代
7) 認知症患者への看護から学ぶ	愛2病棟 ○吉川 香絵
総評、奨励賞贈呈	院長 中村 寿宏
閉会の挨拶	理事長 細木 秀美



新型コロナウイルス感染拡大のため、令和2年12月開催予定を令和3年2月に延期。初めてのリモートを使った発表会を開催しました。本会場を含め7会場に分散して無事に発表を終えました。参加者は全会場合計で69名。

細木病院

あうん高知
三愛病院

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

細木病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

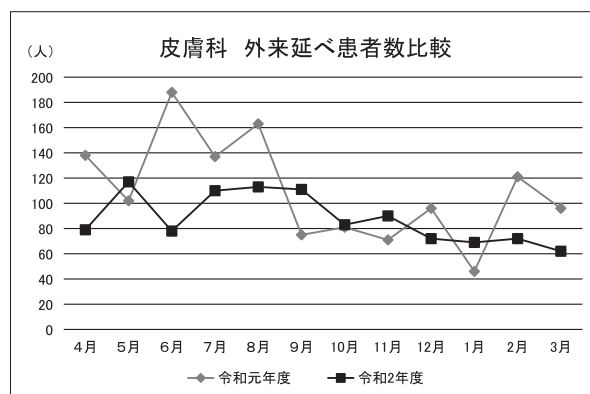
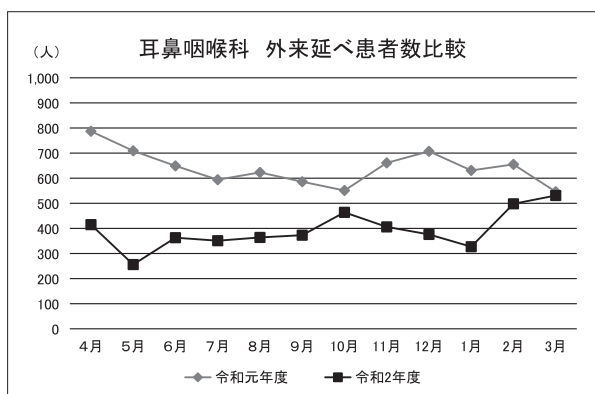
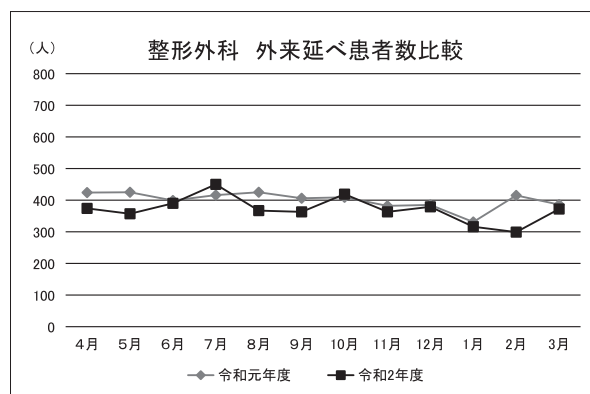
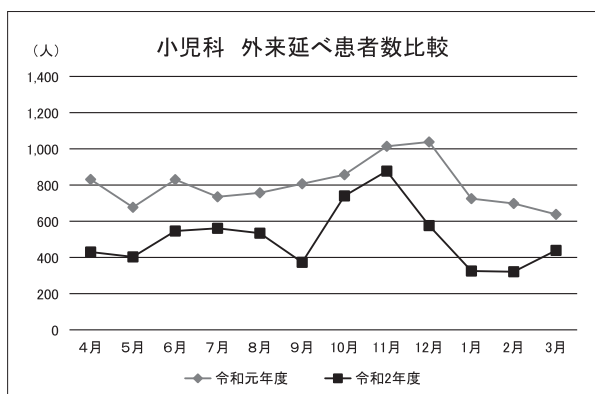
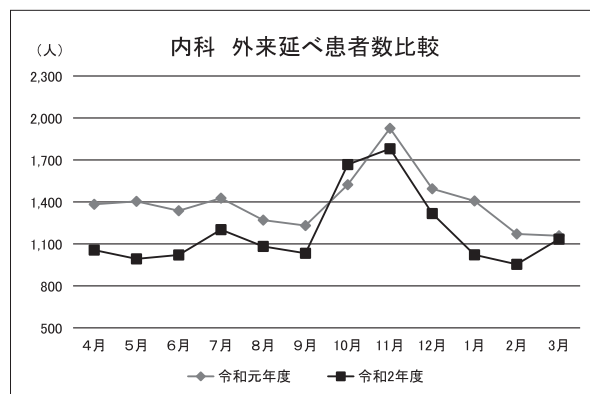
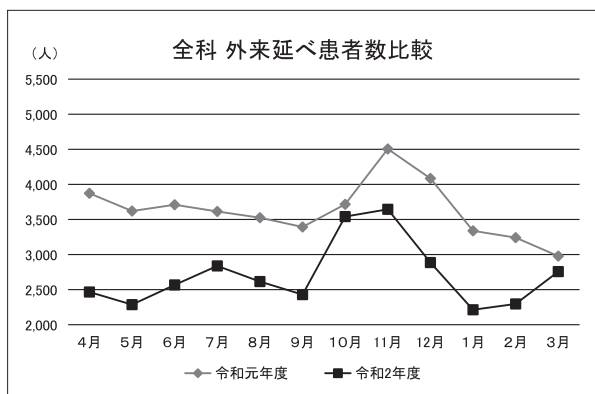
福寿園

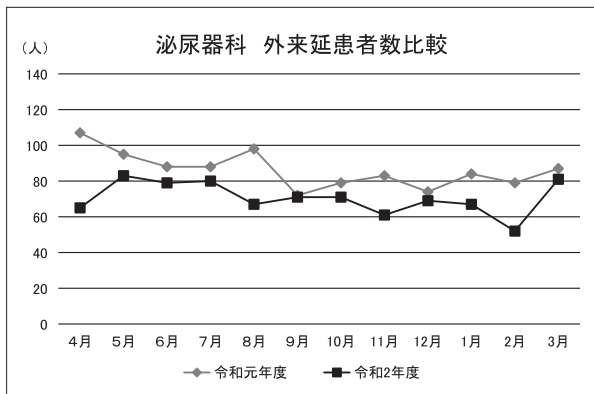
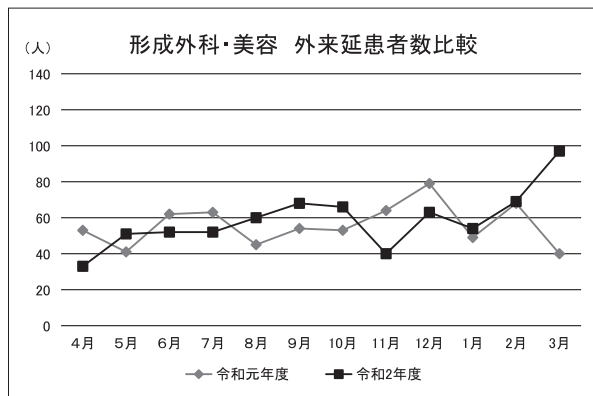
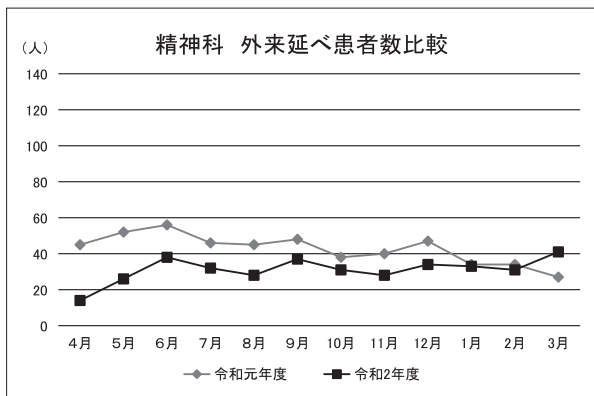
積善会

診療部

■ 2020(令和2)年度 外来患者数統計

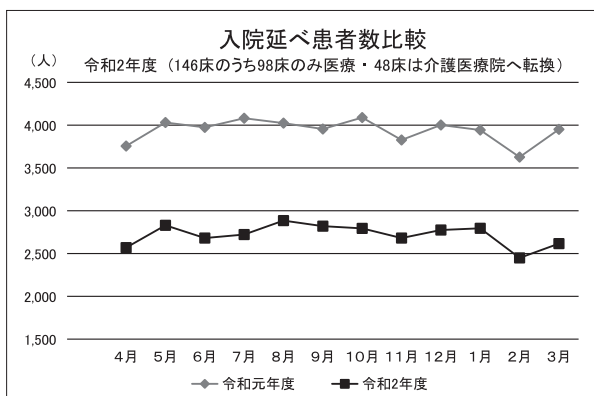
令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実患者数(人)	1,962	1,893	1,886	2,045	1,883	1,936	2,764	2,987	2,324	1,816	1,922	2,196	25,614
延べ患者数(人)	2,466	2,286	2,567	2,838	2,615	2,429	3,541	3,645	2,886	2,213	2,296	2,757	32,539
平均患者数(人)	98.6	99.4	98.7	113.5	104.6	101.2	131.1	158.5	111.0	96.2	104.4	106.0	110.3
新患者数(人)	58	39	58	52	59	59	105	147	88	48	49	70	832





■ 2020(令和2)年度 入院患者数統計

令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率(%)	87.4	93.2	91.2	89.6	95.0	95.9	92.0	91.2	91.3	92.0	86.2	86.1	90.9
延べ患者数(人)	2,569	2,830	2,681	2,722	2,885	2,820	2,794	2,681	2,775	2,795	2,449	2,616	2,718
平均患者数(人)	85.6	91.3	89.4	87.8	93.1	94.0	90.1	89.4	89.5	90.2	84.4	84.4	89.1



細木病院

三愛病院
あつみ高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

看護部

2020(令和2)年度 病棟別業務実績 愛1病棟(障害者施設等)業務実績

病棟形態	令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
障害者施設等 (53床)	稼働率(%)	84.0	91.9	91.0	89.7	95.1	93.8	87.7	87.9	87.9	88.4	82.1	80.5	88.3
	延べ患者数(人)	1,336	1,510	1,447	1,473	1,562	1,492	1,441	1,397	1,444	1,453	1,262	1,322	1,428
	平均患者数(人)	44.5	48.7	48.2	47.5	50.4	49.7	46.5	46.6	46.6	46.9	43.5	42.6	46.8

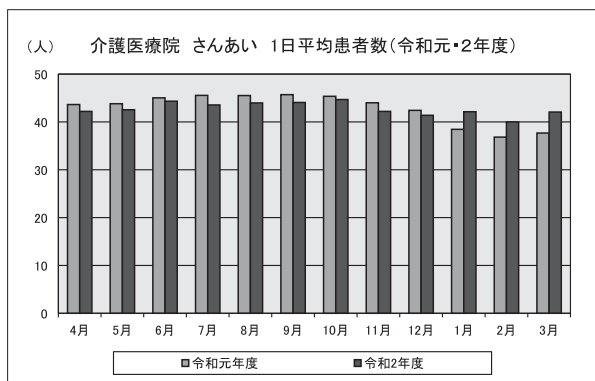
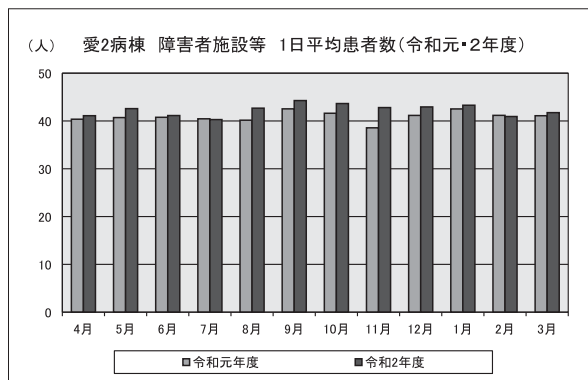
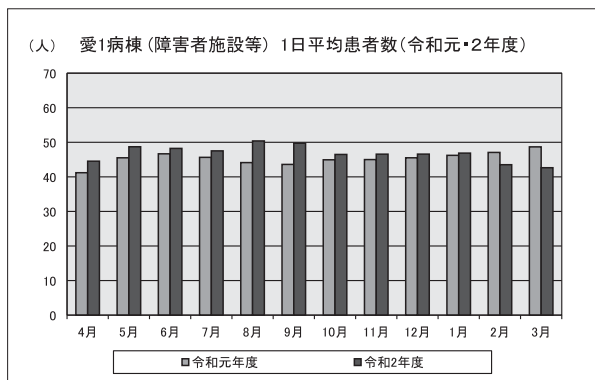
愛2病棟(障害者施設等)業務実績

病棟形態	令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
障害者施設等 (45床)	稼働率(%)	91.3	94.6	91.4	89.5	94.8	98.4	97.0	95.1	95.4	96.2	91.0	92.8	94.0
	延べ患者数(人)	1,233	1,320	1,234	1,249	1,323	1,328	1,353	1,284	1,331	1,342	1,187	1,294	1,290
	平均患者数(人)	41.1	42.6	41.1	40.3	42.7	44.3	43.6	42.8	42.9	43.3	40.9	41.7	42.3

介護療養院 さんあい(I型介護医療院)業務実績

病棟形態	令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
介護療養院 さんあい 令和2年4月1日~ 介護医療院へ転換 (48床)	稼働率(%)	87.9	88.6	92.4	90.7	91.6	91.8	93.1	87.9	86.2	87.8	83.3	87.6	89.1
	延べ患者数(人)	1,266	1,319	1,330	1,350	1,363	1,322	1,385	1,266	1,283	1,306	1,160	1,304	1,305
	平均患者数(人)	42.2	42.5	44.3	43.5	44.0	44.1	44.7	42.2	41.4	42.1	40.0	42.1	42.8

病棟別1日平均患者数(前年度比)



医療技術部門

■ 2020（令和2）年度 薬剤室業務実績

薬剤室 処方箋・服薬指導・検薬件数

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来処方箋件数	24	16	12	7	15	17	11	9	16	9	13	21	170
外来処方箋件数(注射)	272	258	298	309	293	284	325	286	295	260	243	314	3,437
入院処方箋件数	2,211	1,486	1,759	1,809	1,774	1,819	1,539	1,807	1,747	1,670	1,611	1,652	20,884
入院処方箋件数(注射)	827	950	905	1,101	1,121	1,564	1,605	1,009	1,357	968	700	625	12,732
併設あうん高知 処方箋件数	427	327	396	412	300	282	424	284	393	319	313	280	4,157
併設あうん高知 処方箋件数(注射)	2	4	5	4	10	0	22	11	7	3	6	14	88
服薬指導件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
検薬件数(持参薬)	10	17	18	12	10	16	18	15	15	13	14	17	175
併設あうん高知 検薬件数	2	7	5	10	9	6	5	9	12	6	6	9	86

薬剤室 処方箋枚数

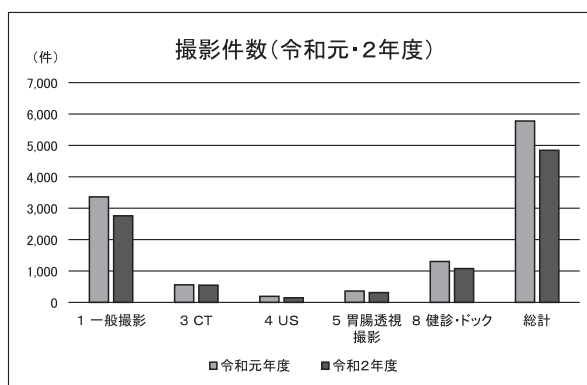
年度	外来(内服)	外来(注射)	入院(内服)	入院(注射)	あうん高知(内服)	あうん高知(注射)
令和元年度	161	1,208	6,247	5,509	1,506	108
令和2年度	161	2,106	6,344	6,584	1,288	71

薬剤室 処方件数

年度	外来(内服)	外来(注射)	入院(内服)	入院(注射)	あうん高知(内服)	あうん高知(注射)
令和元年度	188	1,333	18,814	8,398	4,005	138
令和2年度	170	3,437	20,884	12,732	4,157	88

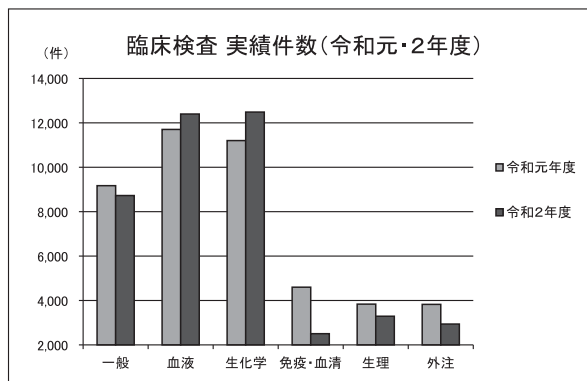
■ 放射線室 撮影件数

	令和元年度	令和2年度	前年度比
1 一般撮影	3,361	2,758	82%
3 CT	559	548	98%
4 US	193	148	77%
5 胃腸透視撮影	361	313	87%
8 健診・ドック	1,303	1,077	83%
総計	5,777	4,844	84%



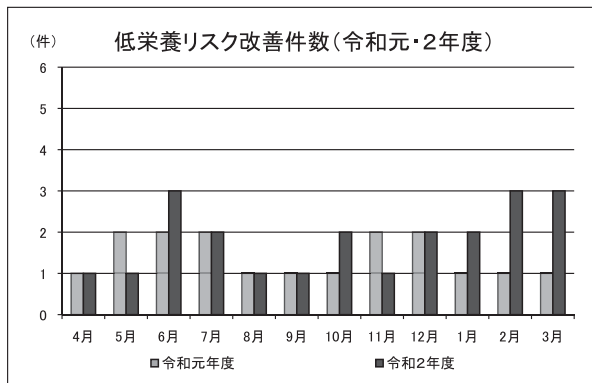
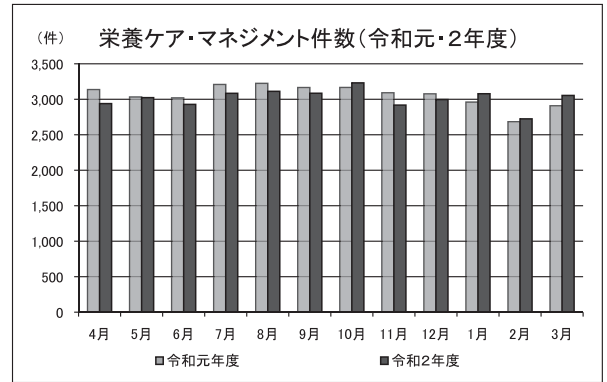
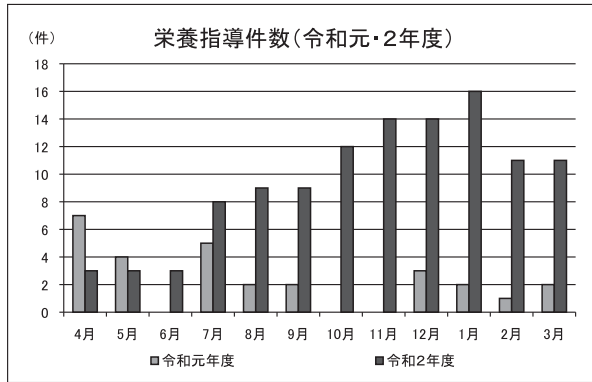
■ 臨床検査室 検査業務実績件数

	令和元年度	令和2年度	前年度比
一般	9,171	8,727	95%
血液	11,704	12,398	106%
生化学	11,202	12,486	111%
免疫・血清	4,599	2,505	54%
生理	3,836	3,291	86%
外注	3,825	2,939	77%



■ 栄養管理室 業務実績

項目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
栄養指導	令和元年度	7	4	0	5	2	2	0	0	3	2	1	2
	令和2年度	3	3	3	8	9	9	12	14	14	16	11	11
栄養ケア・マネジメント	令和元年度	3,136	3,032	3,019	3,208	3,224	3,165	3,166	3,091	3,076	2,960	2,683	2,908
	令和2年度	2,939	3,023	2,928	3,084	3,112	3,085	3,231	2,918	2,996	3,078	2,724	3,054
低栄養リスク改善	令和元年度	1	2	2	2	1	1	1	2	2	1	1	1
	令和2年度	1	1	3	2	1	1	2	1	2	2	3	3



細木病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

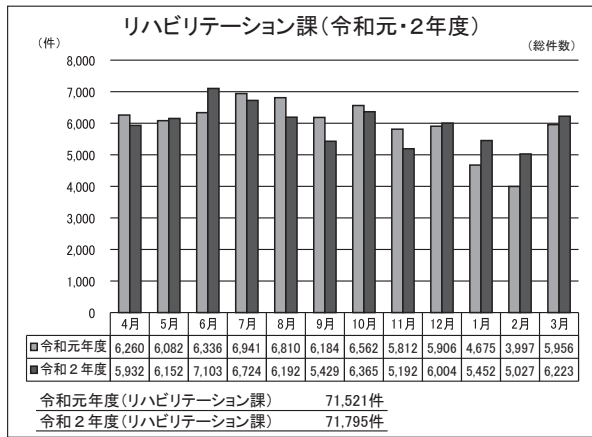
アドレス・高知

福寿園

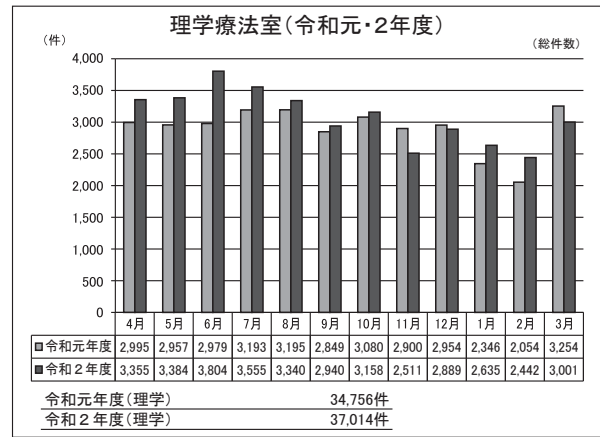
積善会

■ 2020(令和2)年度 リハビリテーション課 業務実績

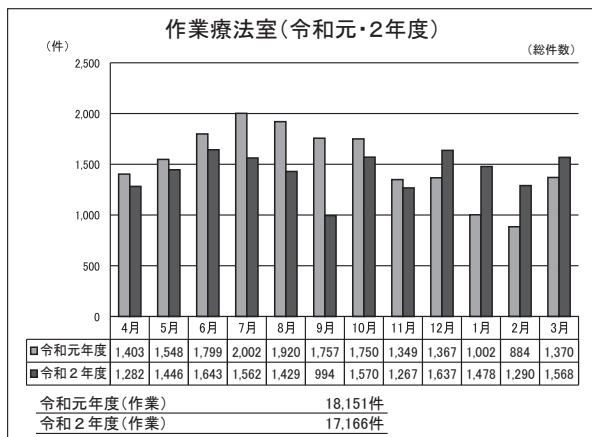
リハビリテーション課



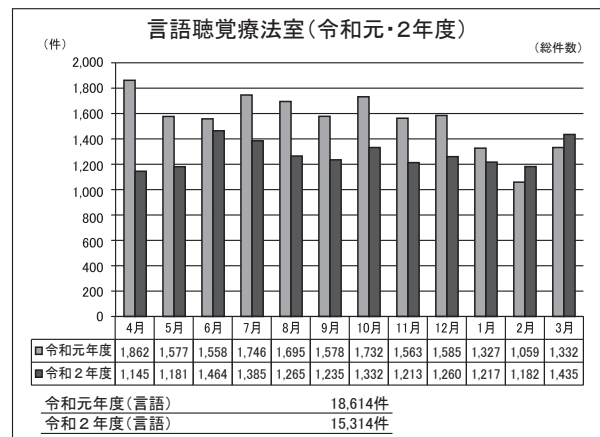
理学療法室



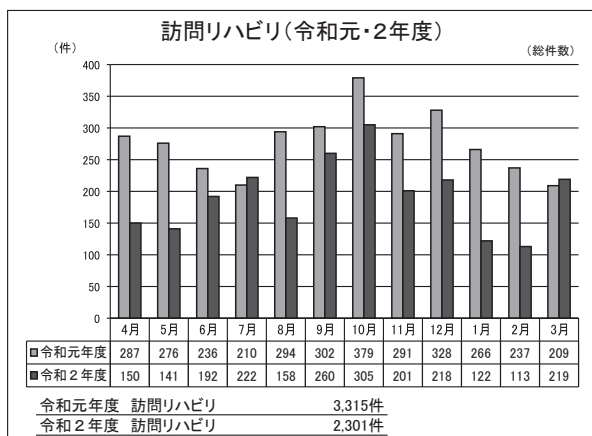
作業療法室



言語聴覚療法室



訪問リハビリテーション



在宅部門

■ 居宅介護支援事業所「一宮」 業務実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和元年度	介護保険利用者数(人)	104	97	101	107	104	105	102	105	103	98	99	98	1,223	102
	介護予防利用者数(人)	19	20	20	18	18	19	19	20	19	19	17	18	226	19
令和2年度	介護保険利用者数(人)	100	97	100	105	104	104	108	112	104	104	105	110	1,253	104
	介護予防利用者数(人)	17	20	20	20	21	21	24	23	22	23	22	22	255	21

■ デイサービスいろは 業務実績

サービス種類：通所介護・総合事業

病棟形態	令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
通所介護・総合事業	稼働率(%)	69.7	68.3	74.0	78.8	76.9	76.9	81.5	79.7	75.9	78.6	82.5	86.4	77.4
	延べ人数(人)	544	533	577	638	600	600	660	598	615	566	594	700	602.1
	1日平均利用者件数(件)	20.9	20.5	22.2	23.6	23.1	23.1	24.4	23.9	22.8	23.6	24.8	25.9	23.2

■ グループホームいろは丸 業務実績

令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率(%)	100.0	93.7	88.5	94.4	94.6	100.0	92.3	99.1	100.0	95.0	89.7	85.3	94.4
延べ入居者数(人)	540	523	478	527	528	540	515	535	558	530	452	476	517
1日平均入居者数(人)	18.0	16.9	15.9	17.0	17.0	18.0	16.6	17.8	18.0	17.1	16.1	15.4	17.0

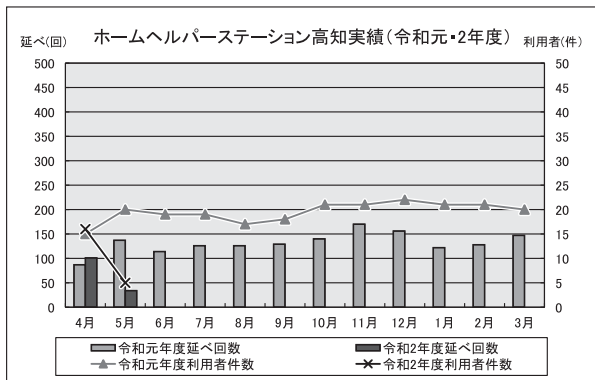
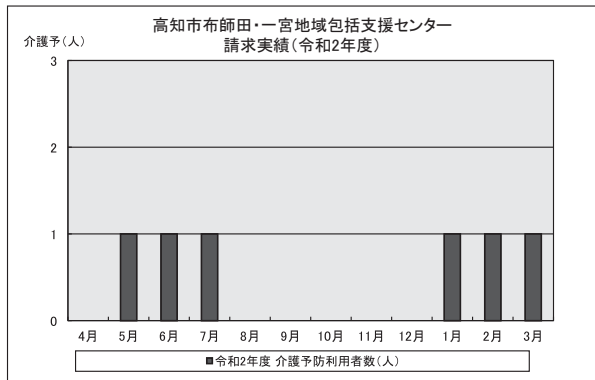
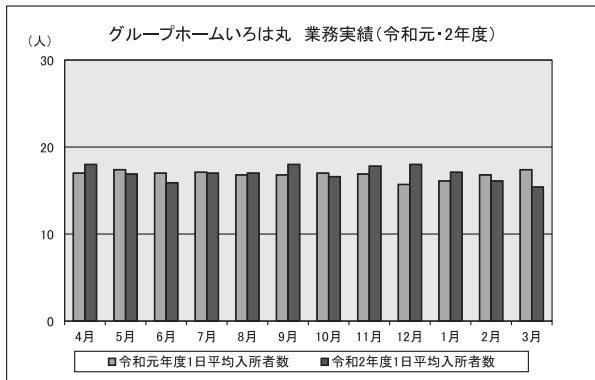
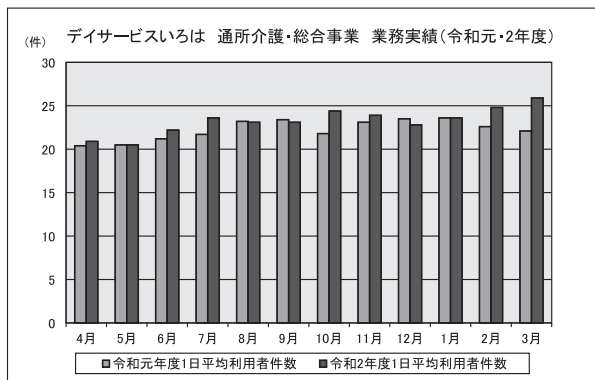
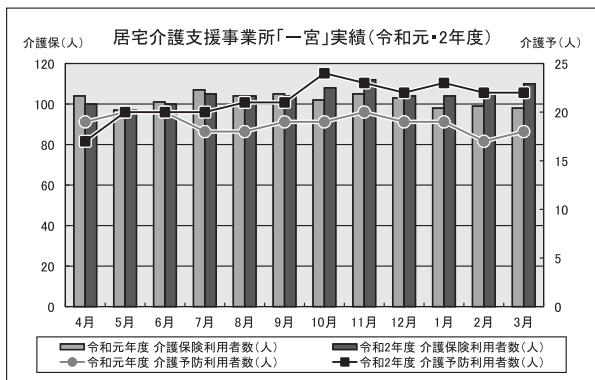
■ 高知市布師田・一宮地域包括支援センター 請求実績

令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
介護予防利用者数(人)	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	6	1

■ ホームヘルプステーション高知 業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
令和元年度延べ回数(回)	87	137	114	126	126	129	140	170	156	122	128	147	1582	132
令和2年度延べ回数(回)	101	34											135	68
令和元年度利用者件数(件)	15	20	19	19	17	18	21	21	22	21	21	20	234	20
令和2年度利用者件数(件)	16	5											21	11

令和2年5月31日 事業所廃止



老人保健施設あうん高知

■ あうん高知 業務実績

サービス種類：入所・短期

病棟形態	令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入所・短期	稼働率(%)	93.5	90.2	93.6	90.4	93.0	94.0	96.0	90.4	91.4	90.9	93.6	90.9	92.3
	延べ患者数(人)	1,851	1,846	1,854	1,850	1,902	1,861	1,964	1,790	1,871	1,859	1,730	1,859	1,853
	1日平均入所者件数(件)	61.7	59.5	61.8	59.7	61.4	62.0	63.4	59.7	60.4	60.0	61.8	60.0	61.0
	在宅復帰率(%)	60.0	58.6	62.1	65.6	61.3	65.7	67.7	75.8	71.9	72.4	81.5	82.1	

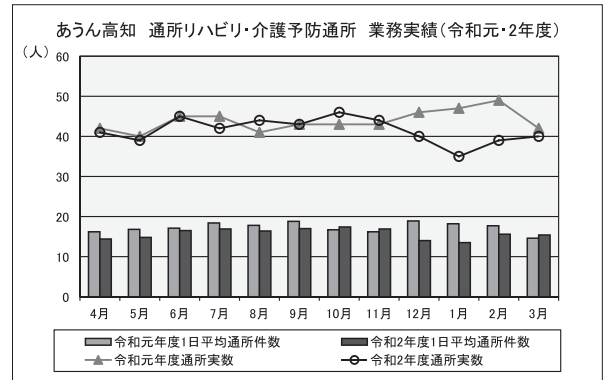
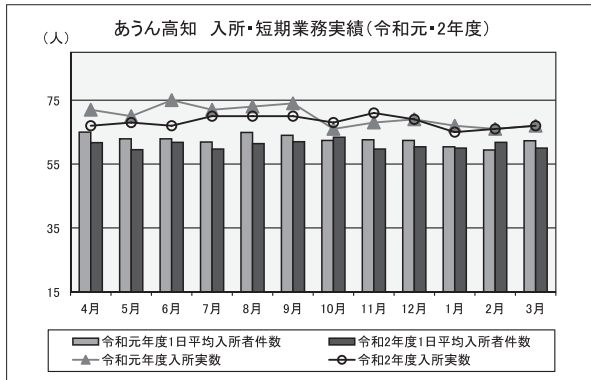
■ あうん高知 業務実績

サービス種類：通所リハビリ・介護予防通所

病棟形態	令和2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
通所・介護予防通所	稼働率(%)	41.2	42.3	47.1	48.3	46.9	48.7	49.6	48.3	39.9	38.7	65.1	64.2	48.4
	延べ患者数(人)	375	385	429	456	427	443	469	423	363	325	375	416	407
	1日平均利用者件数(件)	14.4	14.8	16.5	16.9	16.4	17.0	17.4	16.9	14.0	13.5	15.6	15.4	15.7

令和3年2月～利用者定数35人→24人に変更のため

	4月～1月	2月～3月
稼働率(%)	45.2	64.6



■ 看護部

□ 学会・研究会

1. 〇片岡典代¹、篠原雅幸²、森本真由美³、香川直子³、品原正幸⁴、丸山博²、熊谷千鶴²、中村寿宏⁴、西岡達矢²(三愛病院看護部¹、細木病院内科²、細木病院看護部³、三愛病院内科⁴):「1型糖尿病を発症した全盲患者への療養支援」第63回日本糖尿病学会年次学術集会、Web、2020年10月5日

□ 講義 (講師、院外研修指導者含む)

1. 片岡典代:「糖尿病アドバイザー派遣事業」、芸西村、本山町、津野町、大川村、梶原町、高知県中央西福祉保健所、2020年6月24日～2021年1月25日 (7日間)

■ 医療技術部門

■ 栄養管理室

□ 学会・研究会

1. 〇石山由香:「少量高カロリーカップゼリー導入による喫食率改善と厨房業務軽減の両立」、ネスレオンラインセミナー、ネスレ日本株式会社ネスレヘルスサイエンスカンパニー、WEBセミナー、2020年6月27日

□ 講演 (講習会を含む)

1. 石山由香:「生活習慣病予防のための食事について」、紡、高知市、2020年11月26日

□ 取 材

1. 三愛病院 栄養管理室:「経腸栄養管理下の下痢発生におけるリスク管理」、栄養経営エキスパート、2021年1月1日

■ リハビリテーション課

□ 講演 (講習会を含む)

1. 弘田美幸:「お口の機能と健康寿命」～噛む力について～、紡、高知市、2020年7月9日
2. 竹倉佐和子:「さよなら肩こり・五十肩」、紡、高知市、2020年7月30日
3. 田島一樹:「自宅環境を整えて転倒を予防しよう!!」、紡、高知市、2020年9月10日
4. 大原加有里:「介護生活を楽にするリフォーム術」、紡、高知市、2020年9月24日
5. 弘田美幸:「お口の機能と健康寿命」～噛む力について～、紡、高知市、2020年10月8日
6. 松坂 篤:「体験してみよう!! ゴムバンドを使った運動」、紡、高知市、2020年11月12日
7. 高橋良昌:「Let's Walking 歩いて健康寿命を延ばそう!」、紡、高知市、2020年12月10日
8. 西森溪二:「良い椅子 良い立ち方 良い座り方」、紡、高知市、2021年3月11日

■ 地域医療連携室

□ 講演 (講習会を含む)

1. 浦中萌和:「困った時の介護保険」、マルナカ紡、高知市、2021年3月25日

■ 在宅部門

■ 高知市布師田・一宮地域包括支援センター

□ 講演 (講習会を含む)

1. 高知市布師田・一宮地域包括支援センター全職員:「高知市地域包括支援センターの変遷・業務内容及び医療機関MSWへ期待すること」、仁生会ソーシャルワーカー連絡会、高知市、2021年2月19日

細木病院

依 頼 元 名	延べ人数
看 護 部 (愛1病棟)	
高知開成専門学校 看護学科 (1年生)	2
高知開成専門学校 看護学科 (2年生)	6
(愛2病棟)	
高知開成専門学校 看護学科 (1年生)	2
高知開成専門学校 看護学科 (2年生)	6
合 計	16

三愛病院
あうん高知

医療技術部門 (リハビリテーション課)	
土佐リハビリテーションカレッジ 理学療法科 (4年次)	1
高知リハビリテーション専門職大学 理学療法学専攻 (2年次)	2
高知リハビリテーション専門職大学 作業療法学専攻 (2年次)	1

日高クリニック

(地域医療連携室)	
高知県立大学 社会福祉学部 (3回生)	1
合 計	5

事 務 部 (医事課)	
四国医療工学専門学校 医療情報学科 1年生	10
合 計	10

本 部

在 宅 部 門 (デイサービスいろは)	
高知学園短期大学 看護学部	6
(グループホームいろは丸)	
高知県立大学 社会福祉学部	6
(高知市布師田・一宮地域包括支援センター)	
龍馬看護ふくし専門学校 看護学科 (3年生)	4
合 計	16

アドレス・高知

あうん高知 (入所)	
高知県立大学 社会福祉学部 (2回生)	2
高知県立大学 社会福祉学部 (3回生)	2
(通所リハビリテーション デイケア・ファイト)	
高知県立大学 社会福祉学部 (1回生)	6
合 計	10

福寿園

三愛病院総合計	57
---------	----

積善会